

(様式第10)

機構岐病総81号

厚生労働大臣 殿

令和 7年 10月 3日  
開設者名 国立大学法人東海国立大学機構  
機構長 松尾 清一

### 岐阜大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 年度の業務に関して報告します。

#### 1 開設者の住所及び氏名

住所	〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町1番
氏名	国立大学法人東海国立大学機構

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

#### 2 名称

岐阜大学医学部附属病院
-------------

#### 3 所在の場所

〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸1番1
電話( 058 ) 230 — 6000

#### 4 診療科名

##### 4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

##### 4-2 標榜している診療科名

###### (1) 内科

内科	有
内科と組み合わせた診療科名等	
<input type="radio"/> 1呼吸器内科	<input type="radio"/> 2消化器内科
<input type="radio"/> 5神経内科	<input type="radio"/> 6血液内科
<input type="radio"/> 9感染症内科	<input type="radio"/> 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2)外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
<input type="radio"/>	1呼吸器外科	<input type="radio"/>	2消化器外科	<input type="radio"/>	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	<input type="radio"/>	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

<input type="radio"/>	1精神科	<input type="radio"/>	2小児科	<input type="radio"/>	3整形外科	<input type="radio"/>	4脳神経外科
<input type="radio"/>	5皮膚科	<input type="radio"/>	6泌尿器科	<input type="radio"/>	7産婦人科		8産科
	9婦人科	<input type="radio"/>	10眼科	<input type="radio"/>	11耳鼻咽喉科	<input type="radio"/>	12放射線科
<input type="radio"/>	13放射線診断科	<input type="radio"/>	14放射線治療科	<input type="radio"/>	15麻酔科	<input type="radio"/>	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4)歯科

歯科						有
歯科と組み合わせた診療科名						
<input type="radio"/>	1小児歯科	<input type="radio"/>	2矯正歯科	<input type="radio"/>	3歯科口腔外科	
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	血液・感染症内科	2	脳神経内科	3	形成外科	4	病理診断科	5	リハビリテーション科
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
37				577	614

(単位:床)

## 6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	383	22.8	405.8
歯科医師	10	1.7	11.7
薬剤師	50	0.1	50.1
保健師	1	0	1
助産師	28	2	30
看護師	657	28.3	685.3
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	6	0	6
管理栄養士	16	2.3	18.3

職種	員数
看護補助者	49
理学療法士	23
作業療法士	4
視能訓練士	5
義肢装具士	0
臨床工学士	20
栄養士	0
歯科技工士	2
診療放射線技師	49

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査技師	62	
臨床検査	衛生検査技師	0
その他	0	
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	10	
その他の技術員	19	
事務職員	194	
その他の職員	46	

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	42	眼科専門医	7
外科専門医	40	耳鼻咽喉科専門医	12
精神科専門医	7	放射線科専門医	13
小児科専門医	24	脳神経外科専門医	11
皮膚科専門医	5	整形外科専門医	17
泌尿器科専門医	7	麻酔科専門医	17
産婦人科専門医	14	救急科専門医	19
合計			235

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

## 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 秋山 治彦 ) 任命年月日 令和 4 年 4 月 1 日

令和2年4月より医療安全管理委員会委員として安全管理業務に携わっている。

## 9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	520.58 人	6.15 人	526.72 人
1日当たり平均外来患者数	1261.71 人	58.15 人	1319.86 人
1日当たり平均調剤数		1,652 剤	
必要医師数		128.1 人	
必要歯科医師数		4 人	
必要薬剤師数		23 人	
必要(准)看護師数		308 人	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

## 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要				
			病床数	6 床	心電計	有	
集中治療室	137.23 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有	
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有	
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	144.21 m <sup>2</sup>	病床数	14 床		
	[移動式の場合]	台数	12 台				
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積		54.63 m <sup>2</sup>			
	[共用室の場合]	共用する室名					
化学検査室	368 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置			
細菌検査室	106 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自动細菌検査装置			
病理検査室	352 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生物顕微鏡、病理診断システム			
病理解剖室	252 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ルーム型遺体保冷庫			
研究室	714 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	超低温フリーザ、分析装置、滅菌装置など			
講義室	656 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 11 室	収容定員 427 人			
図書室	42 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 1 室	蔵書数 169000 冊程度			

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	89.7 %	逆紹介率	84.9 %
算出根拠	A:紹介患者の数	12234	人
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数	13341	人
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	1856	人
	D:初診の患者の数	15710	人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
王 志剛	岐阜大学		機構長が指名する副学長	有	3
富田 栄一	岐阜県病院協会・ 岐阜市民病院・松波総合病院	○	医療に係る安全管理に 識見を有する者	無	1
中西 敏夫	弁護士法人 森川・鈴木法律事務所		法律に関する識見を 有する者	無	1
清住 一孝	柳戸会		医療を受ける者	無	2
青木 昇平	つかさ会		医療を受ける者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者

2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)

3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
岐阜大学医学部附属病院ホームページ <a href="https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/guide/gaibu_kansa.html">https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/guide/gaibu_kansa.html</a>	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数(人)
CYP2D6遺伝子多型検査	2人
先進医療の種類の合計数	1
取扱い患者数の合計(人)	2人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	9人
遺伝子組換え活性型血液凝固第VII因子製剤静脈内投与療法 脳出血(発症から二時間以内のものに限る。)	6人
先進医療の種類の合計数	2
取扱い患者数の合計(人)	15人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注)2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

他の高度医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ペーチェット病	48
2	筋萎縮性側索硬化症	32	57	特発性拡張型心筋症	8
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症	8
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	28	60	再生不良性貧血	16
6	パーキンソン病	89	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	2	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	23
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	15
11	重症筋無力症	57	66	IgA腎症	7
12	先天性筋無力症候群	1	67	多発性囊胞腎	19
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	64	68	黄色鞘帯骨化症	2
14	慢性炎症性脱髓性多発神経炎／多巣性運動ニューロパシー	16	69	後縦鞘帯骨化症	25
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	2
16	クロウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	21
17	多系統萎縮症	23	72	下垂体性ADH分泌異常症	8
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	58	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症	1
20	副腎白質ジストロフィー	4	75	クッシング病	3
21	ミコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	23	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	12
23	プリオント病	1	78	下垂体前葉機能低下症	47
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	34	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	50
30	遠位型ミオパシー	0	85	特発性間質性肺炎	21
31	ベスレムミオパシー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	8
32	自己貪食空胞性ミオパシー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2
34	神経線維腫症	11	89	リンパ脈管筋腫症	0
35	天疱瘡	13	90	網膜色素変性症	3
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿瘍性乾癥(汎発型)	14	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	5
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	3
40	高安動脈炎	11	95	自己免疫性肝炎	7
41	巨細胞性動脈炎	14	96	クローン病	76
42	結節性多発動脈炎	3	97	潰瘍性大腸炎	146
43	顕微鏡的多発血管炎	27	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	24	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	13	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	4	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	1	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	165	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	81	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	96	106	クリオピリン関連周期熱症候群	4
52	混合性結合組織病	16	107	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	3
53	シェーグレン症候群	23	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	12	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	5	110	ブラウ症候群	0

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパシー	1	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	167	マルファン症候群	4
113	筋ジストロフィー	6	168	エーラス・ダンロス症候群	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	169	メンケス病	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
116	アトピー性脊髄炎	0	171	ウィルソン病	1
117	脊髄空洞症	1	172	低ホスファターゼ症	0
118	脊髄髓膜瘤	0	173	VATER症候群	0
119	アイザックス症候群	1	174	那須・ハコラ病	0

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

120	遺伝性ジストニア	0	175	ウイーバー症候群	0
121	神経フェリチン症	0	176	コフイン・ローリー症候群	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	179	ウイリアムズ症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	180	ATR-X症候群	0
126	ペリー症候群	0	181	クルーゾン症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	182	アペール症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	183	ファイファー症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	185	コフイン・シリス症候群	0
131	アレキサンダー病	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	187	歌舞伎症候群	0
133	メビウス症候群	0	188	多脾症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	189	無脾症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
136	片側巨脳症	0	191	ウェルナー症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	192	コケイン症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	193	プラダード・ウイリ症候群	0
139	先天性大脑白質形成不全症	0	194	ソトス症候群	0
140	ドラベ症候群	2	195	ヌーナン症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	197	1p36欠失症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	198	4p欠失症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	199	5p欠失症候群	0
145	ウエスト症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	大田原症候群	0	201	アンジェルマン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	202	スミス・マギニス症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
151	ラスマッセン脳炎	0	206	脆弱X症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	208	修正大血管転位症	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	209	完全大血管転位症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	210	単心室症	0
156	レット症候群	0	211	左心低形成症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	0
158	結節性硬化症	1	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
159	色素性乾皮症	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0
160	先天性魚鱗癬	0	215	ファロー四徴症	0
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	216	両大血管右室起始症	0
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	12	217	エプスタイン病	0
163	特発性後天性全身性無汗症	2	218	アルポート症候群	1
164	眼皮膚白皮症	1	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜症	1	220	急速進行性糸球体腎炎	0

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
222	一次性ネフローゼ症候群	12	283	後天性赤芽球病	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0
224	紫斑病性腎炎	1	285	ファンコニ貧血	0
225	先天性腎性尿崩症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	287	エプスタイン症候群	0
227	オスラー病	7	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

228	閉塞性細気管支炎	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
230	肺胞低換気症候群	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸	0
231	$\alpha$ 1-アンチトリプシン欠乏症	0	292	総排泄腔外反症	0
232	カーニー複合	0	293	総排泄腔遺残	0
233	ウォルフラム症候群	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロ フィーを除く。)	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
235	副甲状腺機能低下症	0	296	胆道閉鎖症	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	297	アラジール症候群	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	298	遺伝性脾炎	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	299	嚢胞性線維症	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	300	IgG4関連疾患	22
240	フェニルケトン尿症	3	301	黄斑ジストロフィー	1
241	高チロシン血症1型	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
242	高チロシン血症2型	0	303	アッシャー症候群	0
243	高チロシン血症3型	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
244	メープルシロップ尿症	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
245	プロピオン酸血症	2	306	好酸球性副鼻腔炎	19
246	メチルマロン酸血症	2	307	カナバン病	0
247	イソ吉草酸血症	0	308	進行性白質脳症	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	309	進行性ミオクロースてんかん	0
249	グルタル酸血症1型	0	310	先天異常症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
251	尿素サイクル異常症	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	1	313	先天性肺静脈狭窄症	0
253	先天性葉酸吸收不全	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
254	ポルフィリン症	0	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	316	カルニチン回路異常症	0
256	筋型糖原病	0	317	三頭酵素欠損症	0
257	肝型糖原病	1	318	シトリン欠損症	3
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランス フェラーゼ欠損症	0	319	セピアブリン還元酵素(SR)欠損症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェ ラーゼ欠損症	0	320	先天性グリコシリホスファチジルイノシトー ル(GPI)欠損症	0
260	シトステロール血症	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
261	タンジール病	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
262	原発性高カリモミクロン血症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
263	脳膜黄色腫症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
264	無 $\beta$ リポタンパク血症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	1
265	脂肪萎縮症	0	326	大理石骨病	0
266	家族性地中海熱	6	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるも のに限る。)	0
267	高IgD症候群	0	328	前眼部形成異常	0
268	中條・西村症候群	0	329	無虹彩症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アク ネ症候群	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0
270	慢性再発性多発性骨髓炎	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	4
271	強直性脊椎炎	10	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
272	進行性骨化性線維異形成症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
274	骨形成不全症	0	335	ネフロン癆	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0	336	家族性低 $\beta$ リポタンパク血症1 (ホモ接合体)	0
276	軟骨無形成症	1	337	ホモシスチン尿症	1
277	リンパ管腫症/ゴーハム病	14	338	進行性家族性肝内胆汁うつ滞症	0
278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1	339	MECP2重複症候群	1
279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病 変)	3	340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群 を含む。)	0
280	巨大動静脉奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1	341	TRPV4異常症	0
281	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	4			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	120
合計患者数(人)	1752

## 高度の医療の提供の実績

## 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
情報通信機器を用いた診療に係る基準	栄養サポートチーム加算
医療DX推進体制整備加算	医療安全対策加算1
特定機能病院入院基本料 一般(7:1)	感染対策向上加算1
特定機能病院入院基本料 一般(7:1) 注10 入院栄養管理体制加算 病棟名:西6階	患者サポート体制充実加算
特定機能病院入院基本料 精神(13:1)	重症患者初期支援充実加算
救急医療管理加算	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
超急性期脳卒中加算	ハイリスク妊娠管理加算
診療録管理体制加算1	ハイリスク分娩管理加算
医師事務作業補助体制加算1 15対1	呼吸ケアチーム加算
急性期看護補助体制加算(25:1) 看護補助者5割以上	後発医薬品使用体制加算1
急性期看護補助体制加算 注2 夜間100対1急性期看護補助体制加算	病棟薬剤業務実施加算1
急性期看護補助体制加算 注3 夜間看護体制加算	病棟薬剤業務実施加算2
急性期看護補助体制加算 注4 看護補助体制充実加算1	データ提出加算2
看護職員夜間配置加算 区分:1(12対1)	入退院支援加算1
看護補助加算 区分:2(50対1) 精神病棟	入退院支援加算 注4 地域連携診療計画加算
看護補助加算 注4 看護補助体制充実加算1	入退院支援加算 注7 入院時支援加算
療養環境加算	認知症ケア加算2
重症者等療養環境特別加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
無菌治療室管理加算1	精神疾患診療体制加算
無菌治療室管理加算2	精神科急性期医師配置加算2イ
放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	地域医療体制確保加算
放射線治療病室管理加算(密封小線源による治療の場合)	救命救急入院料3
緩和ケア診療加算	救命救急入院料 注2 精神疾患診断治療初回加算の「イ」
小児緩和ケア診療加算	救命救急入院料 注3 救急体制充実加算1
精神科身体合併症管理加算	救命救急入院料 注4に掲げる加算
精神科リエゾンチーム加算	救命救急入院料 注6 小児加算

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

## 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料の注2	がん治療連携計画策定料
外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	ハイリスク妊産婦連携指導料1
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	肝炎インターフェロン治療計画料
糖尿病合併症管理料	薬剤管理指導料
がん性疼痛緩和指導管理料	医療機器安全管理料1
がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	医療機器安全管理料2
がん患者指導管理料イ	精神科退院時共同指導料1及び2（区分:2）
がん患者指導管理料ロ	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
がん患者指導管理料ハ	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
がん患者指導管理料ニ	皮下連続式グルコース測定(一連につき)
外来緩和ケア管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	遺伝学的検査の注1に規定する施設基準
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	骨髄微小残存病変量測定
糖尿病透析予防指導管理料	BRCA1／2遺伝子検査 2 血液・腫瘍細胞
小児運動器疾患指導管理料	がんゲノムプロファイリング検査
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	先天性代謝異常症検査
婦人科特定疾患治療管理料	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
腎代替療法指導管理料	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
一般不妊治療管理料	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)
生殖補助医療管理料1	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
慢性腎臓病透析予防指導管理料	検体検査管理加算(Ⅰ)
外来放射線照射診療料	検体検査管理加算(Ⅳ)
外来腫瘍化学療法診療料1	国際標準検査管理加算
連携充実加算	遺伝カウンセリング加算
外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算	遺伝性腫瘍カウンセリング加算
ニコチン依存症管理料	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	CT撮影及びMRI撮影 1.5テスラ(第4MRI)
ヘッドアップティルト試験	冠動脈CT撮影加算(第1・2・3CT室(64列))
長期継続頭蓋内脳波検査	血流予備量比コンピューター断層撮影 第1CT
単線維筋電図	血流予備量比コンピューター断層撮影 第2CT
神経学的検査	血流予備量比コンピューター断層撮影 第3CT
補聴器適合検査	外傷全身CT加算(第1・2・3CT室(64列))
黄斑局所網膜電図	心臓MRI撮影加算
全視野精密網膜電図	乳房MRI撮影加算(第1MRI室)
コンタクトレンズ検査料1	乳房MRI撮影加算(第2MRI室)
小児食物アレルギー負荷検査	乳房MRI撮影加算(第3MRI室)
経頸静脈的肝生検	乳房MRI撮影加算(第4MRI室)
前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	小児鎮静下MRI撮影加算
CT透視下気管支鏡検査加算	頭部MRI撮影加算
画像診断管理加算4	全身MRI撮影加算(第1MRI室)
ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	全身MRI撮影加算(第2MRI室)
ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	全身MRI撮影加算(第3MRI室)
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	全身MRI撮影加算(第4MRI室)
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	外来化学療法加算1
CT撮影及びMRI撮影(64列以上のマルチスライスCT)1台目(第3CT室)	無菌製剤処理料
CT撮影及びMRI撮影(16以上64列未満のマルチスライスCT)2台目(CTシミュレータ室)	心大血管疾患リハビリテーション料(I)
CT撮影及びMRI撮影(16以上64列未満のマルチスライスCT)3台目(血管造影室)	心大血管疾患リハビリテーション料 初期加算及び急性期リハビリテーション加算
CT撮影及びMRI撮影(64以上のマルチスライスCT)4台目(第2CT室)	脳血管疾患リハビリテーション料(I)
CT撮影及びMRI撮影(64以上のマルチスライスCT)5台目(第1CT室)	脳血管疾患リハビリテーション料 初期加算及び急性期リハビリテーション加算
CT撮影及びMRI撮影 3テスラ(第1MRI)	運動器リハビリテーション料(I)
CT撮影及びMRI撮影 3テスラ(第2MRI)	運動器リハビリテーション料 初期加算及び急性期リハビリテーション加算
CT撮影及びMRI撮影 1.5テスラ(第3MRI)	呼吸器リハビリテーション料(I)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
呼吸器リハビリテーション料 初期加算及び急性期リハビリテーション加算	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
がん患者リハビリテーション料	緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
集団コミュニケーション療法料	緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
通院・在宅精神療法の注8に規定する療養生活継続支援加算	網膜再建術
救急患者精神科継続支援料	人工中耳植込術
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調治療指導管理料に限る。)	植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
医療保護入院等診療料	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
多血小板血漿処置	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)
硬膜外自家血注入	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
導入期加算3及び腎代替療法実績加算	内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
ストーマ合併症加算	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	乳癌センチネルリンパ節生検加算1(併用)
皮膚移植術(死体)	センチネルリンパ節生検(併用)
自家脂肪注入	乳癌センチネルリンパ節生検加算2(単独)
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	センチネルリンパ節生検(単独)
骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
椎間板内酸素注入療法	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
緊急穿頭血腫除去術	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)))
肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術支援機器を用いる場合)	胆管悪性腫瘍手術(脾頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎孟)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	体外衝撃波胆石破碎術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの)	腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(アテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテルによるもの)	腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)
胸腔鏡下弁形成術	腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下弁置換術	体外衝撃波胆石破碎術
経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)	腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経皮的中隔心筋焼灼術	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	腹腔鏡下腎孟形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	同種死体腎移植術
補助人工心臓	生体腎移植術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	人工尿道括約筋植込・置換術
内視鏡的逆流防止粘膜切除術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併設するもの)	腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る）	画像誘導密封小線源治療加算
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	保険医療機関間の連携による病理診断
体外式膜型人工肺管理料	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）	デジタル病理画像による病理診断
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術）	病理診断管理加算2
輸血管管理料Ⅰ	悪性腫瘍病理組織標本加算
貯血式自己血輸血管管理体制加算	看護職員処遇改善評価料(58)
自己生体組織接着剤作成術	外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
自己クリオプレシピテート作成術(用手法)	入院ベースアップ評価料(68)
同種クリオプレシピテート作成術	医療機器安全管理料(歯科)
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	歯科治療時医療管理料
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査
麻酔管理料(Ⅰ)	有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧検査
麻酔管理料(Ⅱ)	歯科口腔リハビリテーション料2
周術期薬剤管理加算	手術用顕微鏡加算
放射線治療専任加算(第1リニアック室・第2リニアック室)	口腔粘膜処置
外来放射線治療加算	歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算
高エネルギー放射線治療	CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
1回線量増加加算(高エネルギー放射線治療)	歯科技工加算1及び2
1回線量増加加算(強度変調放射線治療)IMRT))	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
強度変調放射線治療(IMRT)(第1リニアック室・第2リニアック室)	歯周組織再生誘導手術
画像誘導放射線治療(IGRT)(第1リニアック室)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
体外照射呼吸性移動対策加算	歯根端切除手術の注3
定位放射線治療（第2リニアック室）	口腔粘膜血管腫凝固術
定位放射線治療呼吸性移動対策加算(第1リニアック室)	レーザー機器加算

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

## 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	<p>1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。</p> <p>2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。</p>	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度		
剖 檢 の 状 況	剖検症例数(例)	15
	剖検率(%)	4.9

1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で印む等)。

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
PI3K/Akt腫瘍再生シグナルの解明による新規腫瘍再生治療法の開発	河村 真吾	整形外科	2,400,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
血管内皮グリコカリックス構成成分の違いによる臓器保護メカニズムの解明	岡田 英志	高次救命治療センター	3,500,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
乳酸シャトルを指標とする軟骨での嫌気的解糖系の機能解析と軟骨疾患に対する創薬開発	秋山 治彦	整形外科	2,700,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
化学遺伝学を用いた下降性疼痛抑制系の操作で慢性疼痛治療薬のシードを探す	紙谷 義孝	麻酔科疼痛治療科	2,800,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
Ready-to-useセルパッケージングによる骨再生モダリティーの新戦略と創成	山田 陽一	歯科口腔外科	3,300,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
臨床応用を目的とする量子画像を用いた新規放射線治療技術の開発	松尾 政之	放射線科	5,300,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
血管内皮障害部位への細胞特異的ホーミングペプチドを用いた新規敗血症治療法の開発	鈴木 浩大	高次救命治療センター	4,400,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
核スピンの量子状態操作に基づく超高感度磁気共鳴分子イメージング法の開発	今井 宏彦	放射線科	3,200,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
骨折治癒部位に誘導されるシュワン細胞と間葉系骨形成細胞の細胞間情報伝達機構の解明	河村 真吾	整形外科	1,000,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
体液移動におけるリンパ管内皮グリコカリックスの機能解析	岡田 英志	高次救命治療センター	1,400,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
心臓胸部大血管手術における術後回復過程と血中シングルカウンターの関連性の検討	加藤 貴吉	心臓血管外科	900,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
Dual-energy CTによる、EVAR後エンドリーク評価法の確立	坂井 修	心臓血管外科	500,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
血栓塞栓症と血管内皮グリコカリックス障害の関連についての検討	吉田 隆浩	高次救命治療センター	1,200,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
患者由来癌モデルを用いた頭頸部癌薬物療法個別化への挑戦	小川 武則	耳鼻咽喉科	1,000,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
AIによる循環器リモート身体診察法の開発	大倉 宏之	第2内科	500,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
ケトン体代謝異常症に対する包括的診断・解析システムの構築	笹井 英雄	小児科	1,000,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会

IL-18ペプチド阻害分子立体構造を基盤とした低分子創薬へ向けた比較構造解析	加藤 善一郎	小児科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
変形性膝関節症の治療標的としてのホスホリパーゼCガンマの機能解析	小川 寛恭	整形外科	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ペプチド修飾による骨指向性多硫酸化糖鎖を使った新規骨粗鬆症治療の開発	山田 一成	整形外科	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
人工知能技術を活用したゲノム情報および中間表現型を用いた統合失調症と双極症の判別	大井 一高	精神科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
小胞体ストレスがテモゾロミドに及ぼす影響	庄田 健二	脳神経外科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
グリコカリックスに着目した新たな悪性脳腫瘍治療法の研究	中山 則之	脳神経外科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規神経免疫疾患抗IgLON5抗体関連疾患:診断基準作成と治療反応予測因子の同定	下畠 享良	脳神経内科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
リコンビナント・インブレッド系マウスを用いた膠原病治療モデルの包括的ゲノム解析	宮崎 龍彦	病理部	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
炎症性筋疾患の非侵襲および高感度診断技術の開発	水野 希	放射線科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
慢性肝炎における生体代謝情報の解明と線維化前診断法の開発	河合 信行	放射線科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
小径臍癌の検出および超早期治療効果判定を可能とする重水素代謝MRI法の開発	野田 佳史	放射線科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
超偏極MRIと高磁場NMRを用いた腫瘍内レドックス代謝機構の解明	野澤 麻枝	放射線科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
KRAS遺伝子変異導入モデルを用いたゴーハム病発症機序解明と新規治療薬の探索	野澤 明史	小児科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
血管内皮障害に着目した化学療法誘発性末梢神経障害に対する新規予防・治療戦略	鈴木 昭夫	薬剤部	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
大腸癌微小環境におけるグリコカリックスの機能解析	松橋 延壽	消化器外科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
グリオーマにおける動的核偏極MRIによる代謝情報可視化法の開発	安藤 知広	放射線科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頸動脈エコーによる血管年齢推定法－正確性向上のための新たな手法開発－	森田 浩之	総合内科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ペルオキソーム病モデルフィンシューを用いた神経変性疾患の重症度予測と治療法の開発	久保田 一生	小児科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

RXR $\alpha$ 遺伝子改変マウスを用いた肥満関連大腸癌の発癌機序の解明	境 浩康	第1内科	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
診療ガイドラインの検証と老化モデルの解析に基づく高齢肝硬変患者の包括的治療戦略	清水 雅仁	第1内科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
膵癌に対する過酸化水素局注を併用した新規放射線治療: DNP-MRIを用いた早期効果判定	岩下 拓司	第1内科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
TNFAIP3遺伝子バリアントを導入した1型糖尿病疾患特異的モデル細胞の構築	堀 友博	小児科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
癌細胞に存在する不良ミトコンドリアの代謝制御による新規癌治療法の開発	二村 学	乳腺外科	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳虚血／再灌流障害において、分子シャペロンが神経炎症に及ぼす影響とその分子基盤	田辺 久美子	麻酔科疼痛治療科	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
糖尿病による血管内皮グリコカリックス障害が植皮／皮弁術に与える影響の検討	岡本 遥	高次救命治療センター	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
モーションキャプチャーによる聴性行動反応聴力検査の動作解析とAI解析での難聴診断	小原 奈津子	耳鼻咽喉科	100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自家軟骨移植の代用としてのu-HA/PLLAの可能性	加藤 久和	形成外科	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
幹細胞システムネス性維持とマクロファージ極性転換による骨質維持改善を図る骨再生研究	片桐 渉	歯科口腔外科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
FGF2刺激歯髄細胞由来エクソソームの歯周組織再生に向けた評価	川口 知子	歯科口腔外科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
アレルギーウクチンの作成を目指とした新規手法によるIgE抗体の応答メカニズムの解析	川本 典生	小児科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
複合現実情報端末と超音波によるハイブリッド遠隔診療教育システムの開発	牛越 博昭	第2内科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
心筋オートファジーに着目したHFpEFの病態解明と治療応用の探索	金森 寛充	第2内科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
微量汗中の金属イオンに着目した心腎疾患の病態評価・予後予測法の新規開発	渡邊 崇量	検査部	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
抗重力位で食道を鍛える「ブリッジ嚥下訓練」の臨床応用とメカニズムの解明	國枝 順二郎	脳神経内科	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
骨肉腫細胞の転移に対する嫌気性細胞内エネルギー代謝抑制効果の検討	永野 昭仁	整形外科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
消化器癌、乳癌における表面糖鎖グリコカリックスの変化の形態学的特徴の検討	久野 真史	医療安全管理室	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

人工知能による心電図自動診断モデルの開発と社会実装への取り組み	佐橋 勇紀	第2内科	2,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
多硫酸化糖鎖を用いた骨DDSの開発と骨再生研究	野澤 聰	整形外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
レミフェンタニルによる逆説的痛覚過敏におけるWnt signalingの役割の解明	佐々木 美佳	麻酔科疼痛治療科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
炎症下におけるリンパ管新生の役割の解明	吉田 省造	高次救命治療センター	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
同種移植治療に向けた歯髄幹細胞の免疫寛容メカニズムの解明	山田 さやか	歯科口腔外科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ペルガモットオイルの鎮痛作用に関する基礎的研究－中枢性か末梢性か－	中西 真有美	麻酔科疼痛治療科	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Wntシグナル-CXCL14に着目したデュピュイラン拘縮の病態解明と新規治療方法の研究	平川 明弘	整形外科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
関節軟骨基質の電荷特性を応用した新規変形性関節症治療薬開発の基盤研究	中村 寛	整形外科	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
初代培養細胞灌流型3次元血液脳関門モデルによる中枢神経保護薬の探索	出雲 剛	脳神経外科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肝硬変患者の体組成とアウトカムに関する研究	華井 竜徳	生体支援センター	100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
血管内皮グリコカリックス障害と抗菌薬血中濃度の関連性の探索的研究	手塚 宜行	高次救命治療センター	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
時計遺伝子Bmal1の血管内皮グリコカリックス合成に対する影響の検討	福田 哲也	高次救命治療センター	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
モデルマウスを用いたミトコンドリアチオラーゼ欠損症の病態解明	大塚 博樹	小児科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
転移性腎細胞癌の治療抵抗性におけるグリコカリックス構造の超微形態学的検討	飯沼 光司	泌尿器科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
WHO分類5版で診断した軟部肉腫の診断、予後予測に関するmpMRIの有用性の研究	川口 真矢	放射線科	400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
動的核偏極(DNP)法を用いた超偏極MRIによる脱髓性疾患の早期診断法開発	永田 翔馬	放射線科	100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
動的核偏極法イメージングを用いた心不全の早期診断	藤本 敬太	放射線科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高齢者糖尿病のサルコペニア予防のための新規栄養療法の確立	鷹尾 賢	第3内科	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

胆汁にて胆道癌遺伝子パネル検査と治療薬探索を可能とする胆汁セルブロック検体の開発	奥野 充	第1内科	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
MEGを用いた精神疾患における神経振動の制御機構異常の検討	杉山 俊介	精神科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
アルコール性肝障害における肝ミトコンドリア代謝に着目した線維化前診断法の開発	加賀 徹郎	放射線科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
癌微小環境からみたAYA世代乳癌の特性の解明と新たな治療戦略の構築	徳丸 剛久	消化器外科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
大腸癌微小環境におけるグリコカリックスの機能解析	水谷 千佳	消化器外科	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
三次元培養法を用いたTP阻害薬による5FU耐性解除機構の検討	浅井 竜一	消化器外科	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
細胞間質の体液移動にβ1インテグリンが及ぼす影響の解明	北川 雄一郎	高次救命治療センター	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Ferroptosisに着目したくも膜下出血における新規治薬の開発	松原 博文	脳神経外科	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
日本人頭頸部癌患者における口腔細菌叢の網羅的解析による特異的細菌叢の同定	森 健一	耳鼻咽喉科	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
メニエール病における末梢血单核細胞の炎症性サイトカイン産生能に関する検討	奥田 弘	耳鼻咽喉科	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
術中摘出隅角組織を用いた緑内障眼の網羅的解析	松尾 将人	眼科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
多系統萎縮症のコミュニケーション障害に対する体系的な支援法の確立	山田 恵	脳神経内科	300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
膵癌における血中循環型microRNAを用いたリキッドバイオプシーと治療戦略構築	深田 真宏	消化器外科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
血管内皮構造の差異に焦点を当てた急性腎障害の新規治療ターゲットの検索	柿野 圭紀	高次救命治療センター	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
社会実装を見据えた不顕性肝性脳症の病態解明と包括的診療指針の確立	三輪 貴生	第1内科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
血管内皮グリコカリックスをターゲットにした頭部外傷の病態解明と新規治療法の探索	大村 一史	脳神経外科	1,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Stage IV胃癌に対するconversion surgeryにおける化学療法の奏効度とctDNAの関連	安福 至	消化器外科	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
甲状腺未分化がんモデルマウスの作成による未分化転化メカニズムの統合的理	柴田 博史	耳鼻咽喉科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

高活性、低副作用を狙ったNectin-4標的CAR-NK細胞の構築	高井 学	泌尿器科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
NRAS Q61R変異導入細胞を用いたリンパ管腫症のin vivo研究とバイオマーカーの探索	安江 志保	小児科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
A20ハプロ不全症の疾患モデルマウスを用いた治療薬探索と分子病態解明	門脇 紗織	小児科	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
eHealthを活用した運動指導が保存期慢性腎臓病患者の腎機能に与える影響と機序の解明	内藤 順子	腎臓内科	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
HIV感染患者における治療満足度に関するCross-Sectional Study	石原 正志	先端医療・臨床研究推進センター	460,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高齢大腸癌患者における高齢者総合機能評価とオキサリプラチニンの有害事象の関連	藤井 友奈美	薬剤部	460,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
薬理遺伝学に基づくレンバチニブの個別化薬物療の確立	廣瀬 智恵美	薬剤部	470,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
糖尿病治療における内因性インクレチン効果と摂取栄養素との相互作用の解明	窪田紗希	第3内科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
膵島ChREBPと膵β細胞増殖の関連:新規糖尿病治療法につながることを目指して	窪田創大	第3内科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
マウス生体内初期化技術を用いた機能的甲状腺再生の試み	飯沼 亮太	耳鼻咽喉科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
硝子体再建能力を有する自己集合性ペプチドグル硝子体再建材の開発	坂口 裕和	眼科	28,145,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
糖鎖を用いた骨DDSと骨再生	野澤 聰	整形外科	16,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
自己免疫性GFAPアストロサイトパチーの実態解明と治療法確立を目的としたエビデンス創出研究	木村 暁夫	脳神経内科	10,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
化学療法が奏効した診断時切除不能cStage IVB/pStage IV胃癌に対するConversion surgeryの意義に関するランダム化比較第III相試験	安福 至	消化器外科	14,968,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
「量子生命技術の創製と医学・生命科学の革新」	松尾 政之	放射線科	5,000,000	補委	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入するこ

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Takasugi N, Endo S, Takasugi M, et al	循環器内科	Roles of Atrial Arrhythmias in Triggering Torsade de Pointes in Patients With Acquired Long QT Syndrome.	Circ Arrhythm Electrophysiol. 2024 Oct;17(10):e012675.	Original Article
2	Iwata S, Iwashita T, Senju A, et al	第1内科	Successful Surgical Resection of Pancreatic Arteriovenous Malformation Complicated by Acute Pancreatitis.	Intern Med. 2025 Mar 15;64(6):839–844.	Case Report
3	Onishi S, Iwashita T, Tezuka Y, et al	第1内科	Recurrence rates and risk factors in obscure gastrointestinal bleeding.	DEN Open. 2024 Sep 9;5(1):e70011. (オンライン)	Original Article
4	Iwashita T, Uemura S, Tezuka R, et al	第1内科	Endoscopic ultrasound-guided rendezvous techniques for difficult biliary cannulation: Technical review.	Dig Endosc. 2025 Jan;37(1):68–76.	Original Article
5	Yamamoto H, Hanamatsu Y, Saigo C, et al	呼吸器外科	SOX17 expression in tumor-penetrating vessels in relation to CD8(+) T-cell infiltration in cancer stroma niches.	Thorac Cancer. 2024 Nov;15(32):2319–2326.	Original Article
6	Kato T, Sengoku Y, Banno S, et al	消化器外科	A Case of Pediatric Retroperitoneal Schwannoma Presenting with Myoclonus of the Lower Limb: A Case Report and Review.	Surg Case Rep. 2025;11(1):24–0077.	Case Report
7	Takenaka M, Takase HM, Suzuki NN, et al	産婦人科	Effect and mechanisms of cyclophosphamide- induced ovarian toxicity on the quality of primordial follicles with respect to age at treatment initiation.	Reprod Biol. 2024 Dec;24(4):100959.	Original Article
8	Kohyama K, Ishihara T, Okuda H, et al	形成外科	Factors affecting the patency of the internal jugular vein after neck dissection for malignant hypopharyngeal tumors—Significance of free jejunal flap transfer using the internal jugular vein as the recipient vein.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2025 Apr;103:248– 255.	Original Article

9	Kohyama K, Kato H, Okada H, et al	形成外科	Concomitant heparin use promotes skin graft donor site healing by basic fibroblast growth factor: A pilot prospective randomized controlled study.	Contemp Clin Trials Commun. 2024 Sep 24;42:101375. (オンライン)	Original Article
10	Maeda T, Kato H, Ando T, et al	放射線科	MRI features of histological subtypes of thyroid cancer in comparison with CT findings: differentiation between anaplastic, poorly differentiated, and papillary thyroid carcinoma.	Jpn J Radiol. 2025 Feb;43(2):210–218.	Original Article
11	Takai Y, Kato H, Kawaguchi M, et al	放射線科	MRI characteristics of ovarian metastasis: differentiation from stomach and colorectal cancer.	Jpn J Radiol. 2025 Apr;43(4):676–686.	Original Article
12	Suto T, Kawaguchi M, Kato H, et al	放射線科	Imaging Findings of Human Papillomavirus-Positive and Human Papillomavirus-Negative Oropharyngeal Squamous Cell Carcinoma Associated with Recurrence.	J Clin Med. 2025 Feb 6;14(3):1027. (オンライン)	Original Article
13	Kawaguchi M, Kato H, Furui T, et al	放射線科	Prediction of grading of ovarian endometrioid carcinoma using conventional MRI features.	Jpn J Radiol. 2025 May;43(5):820–828.	Original Article
14	Kaga T, Kato H, Kawaguchi M, et al	放射線科	MRI Characteristics for Distinguishing Solitary Fibrous Tumor From Desmoid Tumor.	Korean J Radiol. 2025 Feb;26(2):169–179.	Original Article
15	Kato H, Ando T, Kito Y, et al	放射線科	MRI and (18)F-FDG-PET/CT findings of cervical reactive lymphadenitis: a comparison with nodal lymphoma.	Pol J Radiol. 2025 Jan 10;90:e9–e18. (オンライン)	Original Article
16	Iritani Y, Kato H, Kaneko Y, et al	放射線科	FDG uptake in the cervical muscles after neck dissection: imaging features and postoperative natural course on (18)FaFDG PET/CT.	Jpn J Radiol. 2024 Aug;42(8):892–898.	Original Article
17	Kawaguchi M, Kato H, Kanayama T, et al	放射線科	Prognostic value of radiological T category using conventional MRI in patients with oral tongue cancer: comparison with pathological T category.	Neuroradiology. 2024 Jun;66(6):907–917.	Original Article

18	Kawaguchi M, Kato H, Koie T, et al	放射線科	CT and MRI findings of small cell neuroendocrine carcinoma of the urinary bladder: comparison with urothelial carcinoma.	Abdom Radiol (NY). 2024 Aug;49(8):2672–2682.	Original Article
19	Nagata S, Matsui Y, Tomita K, et al	放射線科	Is cryoablation a valid option for renal cell carcinomas in direct contact with critical organs?	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2025 Feb;34(1):15–23.	Original Article
20	Suto T, Kato H, Ogawa T, et al	放射線科	Computed tomography and magnetic resonance imaging findings of intracranial and extracranial meningioma with perineural spread through the foramen rotundum: A case report.	J Clin Imaging Sci. 2024 Sep 23;14:36. (オンライン)	Case Report
21	Koyasu N, Hyodo F, Iwasaki R, et al	放射線科	Quantitative spatial visualization of X-ray irradiation via redox reaction by dynamic nuclear polarization magnetic resonance imaging.	Free Radic Biol Med. 2024 Nov 20;225:388–397.	Original Article
22	Seko T, Kato H, Ando T, et al	放射線科	Thyroid hemiatrophy associated with papillary thyroid carcinoma.	Neuroradiology. 2024 Oct;66(10):1795–1803.	Original Article
23	Kaga T, Noda Y, Asano M, et al	放射線科	Diffusion-weighted Echo Planar Imaging with Compressed SENSE (EPICS-DWI) for Pancreas Assessment: A Multicenter Study.	Magn Reson Med Sci. 2024 Aug 6.	Original Article
24	Noda Y, Kobayashi K, Kawaguchi M, et al	放射線科	Assessment of Arterial Involvement in Pancreatic Cancer: Utility of Reconstructed CT Images Perpendicular to Artery.	Cancers (Basel). 2024 Jun 19;16(12):2271. (オンライン)	Original Article
25	Kitamura K, Nakanishi M, Fukuoka N, et al	麻酔科疼痛治療科	Intraoperative vascular anastomosis occlusion due to cold agglutinin disease during brain surgery: a case report.	JA Clin Rep. 2025 Jan 18;11(1):2. (オンライン)	Original Article
26	Shawon RAR, Rahman MM, Dandi SO, et al	検査部	Knowledge, Perception, and Practices of Wildlife Conservation and Biodiversity Management in Bangladesh.	Animals (Basel). 2025 Jan 21;15(3):296. (オンライン)	Original Article
27	Shawon RAR, Rahman MM, Iqbal MM, et al	検査部	An Assessment of the Diversity and Seasonal Dynamics of Small- and Medium-Sized Mammals in Pittachhara Forest, Bangladesh, Using a Camera Trap Survey.	Animals (Basel). 2024 Dec 10;14(24):3568. (オンライン)	Original Article

28	Minamiyama T, Yoshida S, Mizuno Y, et al	高次救命治療センター	A case of hemodiafiltration dialysis preventing progression of acute kidney injury in a patient with hypermyoglobinemia in one kidney: a case report.	J Med Case Rep. 2025 Mar 20;19(1):128. (オンライン)	Case Report
29	Tamaoki Y, Kamidani R, Okada H, et al	高次救命治療センター	Right subclavian artery injury during catheter insertion into the right internal jugular vein treated with endovascular stent graft placement after balloon occlusion test: A case report.	Radiol Case Rep. 2024 Apr 13;19(7):2579–2584. (オンライン)	Case Report
30	Miura T, Miyake T, Okada H, et al	高次救命治療センター	Treatment strategy for compartment syndrome at multiple regions due to injuries caused by a tree fall: a case report.	Int J Emerg Med. 2024 Jul 15;17(1):89. (オンライン)	Original Article
31	Kumada K, Matsumoto-Miyazaki J, Okada H, et al	医療安全管理室	Successful Administration of Kampo Medicine and Acupuncture Treatment to Improve Erythromelalgia: A Case Report.	Cureus. 2024 Jul 31;16(7):e65890. (オンライン)	Case Report
32	Yamada Y, Iihara H, Nagano A, et al	薬剤部	Efficacy of triplet antiemetic prophylaxis against chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients with soft tissue sarcomas receiving consecutive-day doxorubicin and ifosfamide therapy.	Support Care Cancer. 2025 Mar 13;33(4):274. (オンライン)	Original Article
33	Fujii H, Yamada Y, Iihara H, et al	薬剤部	Anamorelin in the Management of Cancer Cachexia: Clinical Efficacy, Challenges, and Future Directions.	Anticancer Res. 2025 Mar;45(3):865–881.	Original Article
34	Fujii H, Makiyama A, Nishimura K, et al	薬剤部	CONUT score as a predictor for anamorelin efficacy in patients with cancer cachexia receiving chemotherapy.	J Pharm Health Care Sci. 2024 Jul 10;10(1):36. (オンライン)	Original Article
35	Fujii H	薬剤部	Pharmacist intervention and identification of adverse events related to treatment efficacy in cancer chemotherapy to improve clinical outcomes.	J Pharm Health Care Sci. 2024 Dec 18;10(1):81. (オンライン)	Original Article
36	Yamada Y, Kobayashi R, Yamamoto T, et al	薬剤部	Medication reconciliation by pharmacists for pre-admission patients improves patient safety.	J Pharm Health Care Sci. 2024 Apr 26;10(1):19. (オンライン)	Original Article

37	Fujii H, Tsuchiya M, Watanabe D, et al	薬剤部	The emerging emetogenicity of trifluridine/tipiracil (TASa <sup>®</sup> 02) from patient self-reporting: a multicenter, prospective, observational study.	Support Care Cancer. 2024 Apr 17;32(5):291. (オンライン)	Original Article
38	Iihara H, Abe M, Wada M, et al	薬剤部	2023 Japan Society of clinical oncology clinical practice guidelines update for antiemesis.	Int J Clin Oncol. 2024 Jul;29(7):873–888.	Original Article
39	Iihara H, Iwai M, Morita R, et al	薬剤部	Mirtazapine plus granisetron and dexamethasone for carboplatin-induced nausea and vomiting in patients with thoracic cancers: A prospective multicenter phase II trial.	Lung Cancer. 2024 Jun;192:107801.	Original Article
40	Watanabe D, Iihara H, Kobayashi R, et al	薬剤部	Dexamethasone– sparing strategies in anthracycline and cyclophosphamide– based chemotherapy with a focus on 5-HT3 receptor antagonists: a network meta-analysis.	Front Oncol. 2024 Jul 26;14:1414037. (オンライン)	Original Article
41	Yamaji F, Fukuta T, Ichihashi M, et al	高次救命治療センター	Effectiveness of syndecan-1 as an adjunct diagnostic marker in small bowel injury: a report of two cases.	Trauma Surg Acute Care Open. 2025 Jan 30;10(1):e001727. (オンライン)	Original Article
42	Taguchi D, Shirakami Y, Sakai H, et al	第1内科	High-Fat Diet Delays Liver Fibrosis Recovery and Promotes Hepatocarcinogenesis in Rat Liver Cirrhosis Model.	Nutrients. 2024 Aug 1;16(15):2506. (オンライン)	Original Article
43	Kojima K, Takada J, Otani K, et al	第1内科	Duodenitis associated with ulcerative colitis and pouchitis after total colectomy successfully treated with upadacitinib: A case report.	DEN Open. 2024 Aug 5;5(1):e415. (オンライン)	Case Report
44	Kojima K, Kuroda H, Takada J, et al	第1内科	Severe colitis in a patient with immunoglobulin A vasculitis.	Dig Liver Dis. 2025 May;57(5):631–632.	Original Article
45	Miwa T, Utakata Y, Hanai T, et al	第1内科	Acute kidney injury development is associated with mortality in Japanese patients with cirrhosis: impact of amino acid imbalance.	J Gastroenterol. 2024 Sep;59(9):849–857.	Original Article
46	Miwa T, Tsuruoka M, Ueda H, et al	第1内科	Current management and future perspectives of covert hepatic encephalopathy in Japan: a nationwide survey.	J Gastroenterol. 2025 Mar 7.	Original Article

47	Miwa T, Suda G, Tateishi R, et al	第1内科	Cachexia is an independent predictor of mortality in patients with cirrhosis.	Hepatol Res. 2025 Mar 12.	Original Article
48	Unome S, Imai K, Aiba M, et al	第1内科	Cachexia is an independent predictor of mortality in patients with hepatocellular carcinoma on systemic targeted therapy.	Clin Nutr ESPEN. 2025 Apr;66:454-459.	Original Article
49	Masuda N, Yamazaki K, Maruyama Y, et al	第1内科	Revealing autoimmune gastritis: Polypoid nodule scar development after endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer.	DEN Open. 2025 Mar 11;5(1):e70094. (オンライン)	Original Article
50	Takada J, Iwashita T, Otani K, et al	第1内科	Comparison of Safety and Efficacy of Diazepam and Midazolam for Moderate Sedation during Gastric Endoscopic Submucosal Dissection.	Dig Dis. 2025 Mar 11:1-9.	Original Article
51	Taguchi D, Shirakami Y, Sakai H, et al	第1内科	Dual Roles of Canagliflozin on Cholangiocarcinoma Cell Growth and Enhanced Growth Suppression in Combination with FK866.	Int J Mol Sci. 2025 Jan 24;26(3):978. (オンライン)	Original Article
52	Utakata Y, Miwa T, Hanai T, et al	第1内科	Usefulness of Retinol-Binding Protein in Predicting Mortality in Patients With Chronic Liver Disease.	JGH Open. 2025 Feb 8;9(2):e70087. (オンライン)	Original Article
53	Maeda T, Shirakami Y, Taguchi D, et al	第1内科	Glyburide Suppresses Inflammation-Related Colorectal Tumorigenesis Through Inhibition of NLRP3 Inflammasome.	Int J Mol Sci. 2024 Oct 30;25(21):11640. (オンライン)	Original Article
54	Imai K, Takai K, Aiba M, et al	第1内科	Psoas Muscle Index as an Independent Predictor of Survival in Patients with Hepatocellular Carcinoma Receiving Systemic Targeted Therapy.	Cancers (Basel). 2025 Jan 10;17(2):209. (オンライン)	Original Article
55	Miwa T, Hanai T, Nishimura K, et al	第1内科	Nutritional assessment using subjective global assessment identifies energy malnutrition and predicts mortality in patients with liver cirrhosis.	Sci Rep. 2025 Feb 9;15(1):4831. (オンライン)	Original Article
56	Hanai T, Nishimura K, Unome S, et al	第1内科	Nutritional counseling improves mortality and prevents hepatic encephalopathy in patients with alcohol-associated liver disease.	Hepatol Res. 2024 Nov;54(11):1089-1098.	Original Article

57	Sakai H, Ichikawa H, Takada J, et al	第1内科	Asymptomatic intestinal tuberculosis of the terminal ileum diagnosed on colonoscopy: a case report and literature review.	J Rural Med. 2024 Apr;19(2):119–125.	Original Article
58	Kojima K, Watanabe K, Kawai M, et al	第1内科	Real-world efficacy and safety of tofacitinib treatment in Asian patients with ulcerative colitis.	World J Gastroenterol. 2024 Apr 7;30(13):1871– 1886.	Original Article
59	Shimizu M	第1内科	Treatment of liver cirrhosis in the era of steatotic liver disease.	Hepatol Res. 2024 Aug;54(8):727–728.	Original Article
60	Miwa T, Hanai T, Hirata S, et al	第1内科	Vitamin D deficiency stratifies the risk of covert and overt hepatic encephalopathy in patients with cirrhosis: A retrospective cohort study.	Clin Nutr ESPEN. 2024 Oct;63:267–273.	Original Article
61	Miwa T, Tajirika S, Imamura N, et al	第1内科	Usefulness of health checkup-based indices in identifying metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease.	JGH Open. 2024 Jun 17;8(6):e13110. (オンライン)	Original Article
62	Hanai T, Nishimura K, Unome S, et al	第1内科	Alcohol-associated liver disease increases the risk of muscle loss and mortality in patients with cirrhosis.	J Gastroenterol. 2024 Oct;59(10):932–940.	Original Article
63	Imai K, Takai K, Aiba M, et al	第1内科	Adverse Events in Targeted Therapy for Unresectable Hepatocellular Carcinoma Predict Clinical Outcomes.	Cancers (Basel). 2024 Sep 14;16(18):3150. (オンライン)	Original Article
64	Hanai T, Nishimura K, Unome S, et al	第1内科	Response to letter to the editor regarding: "Alcohol-associated liver disease increases the risk of muscle reduction and mortality in patients with cirrhosis".	J Gastroenterol. 2024 Dec;59(12):1144–1145.	Letter
65	Hayashi M, Kato T, Fujimoto K, et al	循環器内科	A case report of left ventricular outflow tract obstruction due to early growth of a calcified amorphous tumour despite normal renal function.	Eur Heart J Case Rep. 2025 Jan 20;9(2):ytae703. (オンライン)	Case Report
66	Inui T, Tsuchiya M, Watanabe T, et al	循環器内科	Investigation of the Number of Oral Bacteria in Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease, Asthma, and Asthma and Chronic Obstructive Pulmonary Disease Overlap.	Intern Med. 2025 Mar 22.	Original Article

67	Sahashi Y, Ouyang D, Okura H, et al	循環器内科	AI-echocardiography: Current status and future direction.	J Cardiol. 2025 Feb 21:S0914-5087(25)00053-X.	Original Article
68	Endo S, Kanamori H, Yoshida A, et al	循環器内科	Sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor empagliflozin enhances autophagy and reverses remodeling in hearts with large, old myocardial infarctions.	Eur J Pharmacol. 2025 Apr 5;992:177355.	Original Article
69	Nakashima T, Nagase M, Usui T, et al	循環器内科	Two-To-One Conduction Between the Inside and Outside of the Left Atrial Posterior Wall During Atrial Tachycardia: What Is the Mechanism?	J Cardiovasc Electrophysiol. 2025 Apr;36(4):887-890.	Original Article
70	Minatoguchi S, Sugito N, Heishima K, et al	循環器内科	Restoration effect of chemically modified microRNA-143-3p on acute myocardial infarction in animal models.	Sci Rep. 2025 Jan 7;15(1):1107. (オンライン)	Original Article
71	Nakashima T, Usui T, Morimoto M, et al	循環器内科	Spontaneous resumption of severe infranodal conduction disturbances that followed COVID-19 vaccination.	J Electrocardiol. 2025 Mar-Apr;89:153874.	Case Report
72	Nakashima T, Nagase M, Usui T, et al	循環器内科	Differential ventricular overdrive pacing during long- RPA?supraventricular tachycardia: How can we interpret?	J Cardiovasc Electrophysiol. 2024 Nov;35(11):2242-2245.	Original Article
73	Nakashima T, Nagase M, Takahashi S, et al	循環器内科	Premature ventricular contraction arising from the left coronary sinus cusp: Which signal is the target of ablation?	Indian Pacing Electrophysiol J. 2024 Nov-Dec;24(6):355-357.	Original Article
74	Matsumoto- Miyazaki J, Nishibu Y, Ikegami Y, et al	循環器内科	Spastic Muscle Overactivity in a Patient With a Chronic Disorder of Consciousness After Severe Traumatic Brain Injury Successfully Treated with Acupuncture: A Case Report.	Cureus. 2024 Aug 8;16(8):e66439. (オンライン)	Case Report
75	Imai H, Kawasaki M, Yoshida A, et al	循環器内科	Differences in vascular tissue response after stent implantation between biolimus- eluting and everolimus- eluting stents: a sub- study of the NEXT study.	Heart Vessels. 2025 Apr;40(4):285-294.	Original Article
76	Nakashima T, Tonegawa- Kuji R, Nakamura K, et al	循環器内科	Impact of Being Underweight on the Safety and Efficacy of Atrial Fibrillation Ablation: An Analysis From the Japanese Catheter Ablation Registry.	Circ Arrhythm Electrophysiol. 2024 Nov;17(11):e013026.	Letter

77	Tsujimoto K, Watanabe S, Kondo T, et al	循環器内科	Effects of Early Gait Training on Inpatient Frailty After Transcatheter Aortic Valve Implantation.	Cureus. 2024 Jun 25;16(6):e63086. (オンライン)	Original Article
78	Minatoguchi S, Satake A, Murase H, et al	循環器内科	Elevated plasma progranulin levels in the acute phase are correlated with recovery of left ventricular function in the chronic phase in patients with acute myocardial infarction.	PLoS One. 2024 Nov 8;19(11):e0313014. (オンライン)	Original Article
79	Shimazu R, Nakamura N, Goto T, et al	第1内科	Transformed follicular lymphoma with laryngeal edema requiring tracheal intubation after tisagenlecleucel treatment: A case report.	Medicine (Baltimore). 2024 Sep 6;103(36):e39630.	Case Report
80	Nakamura N, Kanemura N, Matsumoto T, et al	第1内科	Effect of Vitamin D and Skeletal Muscle Mass on Prognosis of Patients with Diffuse Large B-Cell Lymphoma.	Nutrients. 2024 Aug 11;16(16):2653. (オンライン)	Original Article
81	Yabe D, Hamamoto Y, Kawanami D, et al	第3内科	PIONEER REAL Japan: Primary results from a multicenter, prospective, real-world study of oral semaglutide in adults with type 2 diabetes in Japanese clinical practice.	J Diabetes Investig. 2024 Nov;15(11):1566–1577.	Original Article
82	Haraguchi T, Yamazaki Y, Kuwata H, et al	第3内科	Glucagon Stimulation Test and Insulin Secretory Capacity in the Clinical Assessment of Incretin-Based Therapy for Diabetes.	Diabetes. 2024 Dec 1;73(12):2078–2083.	Original Article
83	Imai R, Sakai M, Kato T, et al	第3内科	Hypovascular insulinoma with reduced microvessel density on histopathology: a case report.	Diabetol Int. 2024 Sep 20;15(4):855–860. (オンライン)	Case Report
84	Takahashi Y, Horikawa Y, Matsuyama Y, et al	第3内科	A Novel Multiple Endocrine Neoplasia Type 1 Gene Variant Found in Scalp Pulmonary Neuroendocrine Tumor Metastasis.	JCEM Case Rep. 2025 Mar 20;3(4):luaf047. (オンライン)	Case Report
85	Fuwa M, Tamai Y, Kato A, et al	総合内科	Serum Soluble IL-2 Receptors Are Elevated in Febrile Illnesses and Useful for Differentiating Clinically Similar Malignant Lymphomas from Kikuchi Disease: A Cross-Sectional Study.	J Clin Med. 2024 May 31;13(11):3248. (オンライン)	Original Article

86	Fuwa M, Kajita K, Mori I, et al	総合内科	Mitochondrial fractions located in the cytoplasmic and peridroplet areas of white adipocytes have distinct roles.	FEBS Lett. 2024 Jul;598(14):1753–1768.	Letter
87	Kato A, Fuwa M, Asano M, et al	総合内科	Development and validation of a predictive scoring system for hypoglycaemic agents for optimal control of blood glucose during glucocorticoid therapy.	Intern Med J. 2024 Dec;54(12):1970–1980.	Original Article
88	Imai T, Futamura M, Mori R, et al	消化器外科	Expression of the Niemann–Pick C1-like 1 Protein in Gastric Cancer.	Anticancer Res. 2025 Mar;45(3):965–975.	Original Article
89	Kawai J, Yasufuku I, Fukada M, et al	消化器外科	Successful R0 resection after chemotherapy, including nivolumab, for gastric cancer with liver metastases: three case reports.	Surg Case Rep. 2024 Jun 5;10(1):138. (オンライン)	Original Article
90	Horaguchi T, Tanaka Y, Sato Y, et al	消化器外科	Successful direct oral anticoagulant management of asymptomatic superior mesenteric vein thrombosis after adjuvant chemotherapy for colorectal cancer patient: A case report.	Exp Ther Med. 2024 Aug 8;28(4):396. (オンライン)	Case Report
91	Sato Y, Tanaka Y, Takaha R, et al	消化器外科	Optimal treatment strategy for older patients with esophageal squamous cell carcinoma: A multicenter retrospective study.	Oncol Lett. 2025 Jan 23;29(3):159. (オンライン)	Original Article
92	Horaguchi T, Sato Y, Hatanaka Y, et al	消化器外科	Impact of Right Top Pulmonary Vein Location on Subcarinal Lymph Node Dissection in Thoracoscopic Esophagectomy: A Case Report and Literature Review.	Surg Case Rep. 2025;11(1):24–0093.	Case Report
93	Sato Y, Tanaka Y, Hatanaka Y, et al	消化器外科	Successful staged surgery for advanced esophageal cancer after conversion pancreateoduodenectomy with pancreaticogastrostomy.	Clin J Gastroenterol. 2025 Apr;18(2):249–257.	Case Report
94	Fukada M, Mitsui N, Horaguchi T, et al	消化器外科	Effect of differences in vascular anatomy on surgical outcomes of left pancreatectomy: a retrospective study.	World J Surg Oncol. 2025 Feb 4;23(1):36. (オンライン)	Original Article

95	Tanaka Y, Sato Y, Horaguchi T, et al	消化器外科	Radiomics Features Using Dual-energy CT for Lymph Nodes After Preoperative Chemotherapy for Esophageal Cancer.	Anticancer Res. 2024 Apr;44(4):1661-1674.	Original Article
96	Kuno M, Murase K, Fukada M, et al	消化器外科	Total pancreatectomy in a patient with a dermadrome caused by intraductal papillary mucinous neoplasm: A case report.	Int J Surg Case Rep. 2024 Jun;119:109645.	Case Report
97	Hayashi H, Hanamatsu Y, Saigo C, et al	消化器外科	SOX17 expression in tumor endothelial cells in colorectal cancer and its association with favorable outcomes in patients.	Pathol Res Pract. 2024 Nov;263:155610.	Original Article
98	Kuno M, Tomita H, Endo M, et al	消化器外科	Evaluating glycocalyx morphology and composition in frozen and formalin-fixed liver tumor sections.	Pathol Res Pract. 2024 Nov;263:155660.	Original Article
99	Hayashi H, Yasufuku I, Sato Y, et al	消化器外科	Neutrophil-to-lymphocyte ratio and risk of disease progression in patients with nivolumab-treated unresectable or recurrent gastric cancer.	Oncol Lett. 2024 Oct 22;29(1):20. (オンライン)	Original Article
100	Tawada K, Shimizu Y, Natsume S, et al	消化器外科	Clinical impact of intraoperative pancreatic transection margin analysis and additional resection during pancreaticoduodenectomy for pancreatic ductal adenocarcinoma.	Pancreatology. 2024 Nov;24(7):1174-1181.	Original Article
101	Ono Y, Takigawa H, Takekoshi A, et al	脳神経内科	Frequency of anti-IgLON5 disease in patients with a typical clinical presentation of progressive supranuclear palsy/corticobasal syndrome.	Parkinsonism Relat Disord. 2025 Jan 15:107289.	Letter
102	Kimura A, Takekoshi A, Shimohata T	脳神経内科	Clinical and neuroimaging findings of patients with glial fibrillary acidic protein-immunoglobulin G-like anti-astrocytic antibodies in cerebrospinal fluid.	J Neuroimmunol. 2025 Mar 15;400:578545.	Original Article
103	Shimohata T	脳神経内科	Editorial: COVID-19 and the central nervous system: Emerging insights from experimental neurology.	Exp Neurol. 2025 Apr;386:115165.	Original Article
104	Ono Y, Kunieda K, Ohno T, et al	脳神経内科	Esophageal Dysfunction in Immune Checkpoint Inhibitor-related Myositis: A Case Report.	Intern Med. 2024 Dec 26.	Original Article

105	Ono Y, Tadokoro K, Yunoki T, et al	脳神経内科	Anti-IgLON5 disease as a differential diagnosis of multiple system atrophy.	Parkinsonism Relat Disord. 2024 Jul;124:106992.	Case Report
106	Kunieda K, Hayashi Y, Fujishima I, et al	脳神経内科	Weight and Muscle Mass Loss Associated with Acute Disease Can Be Reversed with Appropriate Nutrition Therapy and Exercise in a Patient with Amyotrophic Lateral Sclerosis.	Intern Med. 2025 Jan 1;64(1):133–136.	Case Report
107	Ono Y, Kunieda K, Takada J, et al	脳神経内科	Distal oesophageal spasm in a patient with multiple system atrophy: A case report.	eNeurologicalSci. 2024 Apr 13;35:100500. (オンライン)	Case Report
108	Mori Y, Yoshikura N, Fukami Y, et al	脳神経内科	Anti-contactin- associated protein 1 antibody-positive nodopathy presenting with central nervous system symptoms.	J Neuroimmunol. 2024 Sep 15;394:578420.	Case Report
109	Kunieda K, Suzuki S, Naganuma S, et al	脳神経内科	Efficacy and Safety of "Vacuum Swallowing" Based on a Strong Negative Esophageal Pressure in Healthy Individuals.	Dysphagia. 2025 Apr;40(2):399–406.	Original Article
110	Yamahara N, Takekoshi A, Kimura A, et al	脳神経内科	Autoimmune Encephalitis and Paraneoplastic Neurological Syndromes with Progressive Supranuclear Palsy-like Manifestations.	Brain Sci. 2024 Oct 9;14(10):1012. (オンライン)	Original Article
111	Ohmura K, Tomita H, Okada H, et al	脳神経外科	Visualizing the endothelial glycocalyx in human glioma vasculature.	Brain Tumor Pathol. 2025 Apr;42(2):33–42.	Original Article
112	Matsubara H, Egashira Y, Enomoto Y	脳神経外科	Antiplatelet Therapy in Endovascular Treatment of Cerebral Aneurysms.	J Neuroendovasc Ther. 2025;19(1):2024–0016.	Original Article
113	Sasaki N, Egashira Y, Enomoto Y, et al	脳神経外科	Transcarotid retrograde stenting for common carotid artery ostial stenosis: how I do it.	Acta Neurochir (Wien). 2025 Mar 4;167(1):57. (オンライン)	Case Report
114	Yasuda S, Egashira Y, Ogiso M, et al	脳神経外科	Segmental arterial mediolysis with subarachnoid hemorrhage following chronic internal carotid artery dissection: illustrative case.	J Neurosurg Case Lessons. 2025 Mar 10;9(10):CASE24810. (オンライン)	Original Article

115	Yasuda S, Yano H, Ikegami Y, et al	脳神経外科	Predicting Isocitrate Dehydrogenase Status in Non-Contrast-Enhanced Adult-Type Astrocytic Tumors Using Diffusion Tensor Imaging and (11)C-Methionine, (11)C-Choline, and (18)F-Fluorodeoxyglucose PET.	Cancers (Basel). 2024 Apr 18;16(8):1543. (オンライン)	Original Article
116	Egashira Y, Kumagai M, Enomoto Y, et al	脳神経外科	How I do it: Surgical interruption of high-flow dural arteriovenous fistulas at the foramen magnum region.	Acta Neurochir (Wien). 2024 Nov 20;166(1):467. (オンライン)	Case Report
117	Sasaki N, Enomoto Y, Hori T, et al	脳神経外科	Cerebrovascular stenosis related to tyrosine kinase inhibitor for chronic myeloid leukemia: two illustrative cases.	BMC Neurol. 2025 Jan 3;25(1):6. (オンライン)	Case Report
118	Owashi E, Ohmura K, Shoda K, et al	脳神経外科	Comparison of transposition and interposition methods in microvascular decompression for hemifacial spasm: an analysis of 109 cases performed by a single surgeon in a single-center retrospective study.	Acta Neurochir (Wien). 2024 May 14;166(1):213. (オンライン)	Original Article
119	Sasaki N, Enomoto Y, Yamagami H, et al	脳神経外科	Real-world Data of Antithrombotic Therapy in Neuroendovascular Therapy: Analysis of JR-NET 4.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2024 Dec 15;64(12):434-441.	Original Article
120	Shoda K, Nishiwaki T, Yamada T, et al	脳神経外科	Endoscope-assisted treatment for delayed cystic radiation necrosis after stereotactic radiosurgery for metastatic brain tumors: illustrative cases.	J Neurosurg Case Lessons. 2024 Oct 14;8(16):case24250. (オンライン)	Original Article
121	Nishiwaki T, Enomoto Y, Egashira Y, et al	脳神経外科	Timeliness and accuracy of the 7-Item Japan Urgent Stroke Triage (JUST-7) score, a prehospital stroke triage tool, assessed by emergency medical services.	PLoS One. 2024 Aug 22;19(8):e0309326. (オンライン)	Original Article
122	Nishiwaki T, Ikeda T, Kushi Y, et al	脳神経外科	Hemodynamic differences determining rupture and non-rupture in middle cerebral aneurysms after growth.	PLoS One. 2024 Aug 22;19(8):e0307495. (オンライン)	Original Article
123	Enomoto Y, Sugiu K, Sakai C, et al	脳神経外科	Efforts toward Gender Equality and Diversity in the Japanese Society for Neuroendovascular Therapy.	J Neuroendovasc Ther. 2024;18(10):257-261.	Original Article

124	Takai K, Sugiyama S, Inui K, et al	精神科	Examining the role of novelty detection in 20- and 40-Hz auditory steady-state responses.	Neuroimage. 2025 Apr 15;310:121136.	Original Article
125	Ohi K, Fujikane D, Takai K, et al	精神科	Epigenetic signatures of social anxiety, panic disorders and stress experiences: Insights from genome-wide DNA methylation risk scores.	Psychiatry Res. 2024 Jul;337:115984.	Original Article
126	Ohi K, Tanaka Y, Otowa T, et al	精神科	Discrimination between healthy participants and people with panic disorder based on polygenic scores for psychiatric disorders and for intermediate phenotypes using machine learning.	Aust N Z J Psychiatry. 2024 Jul;58(7):603-614.	Original Article
127	Sugiyama S, Inui K, Ohi K, et al	精神科	The influence of novelty detection on the 40-Hz auditory steady-state response in schizophrenia: A novel hypothesis from meta-analysis.	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2024 Dec 20;135:111096.	Original Article
128	Ohi K, Nishizawa D, Saito T, et al	精神科	Dietary habits and genetic susceptibility: correlations between nutritional intake and genetic risks for schizophrenia and bipolar disorder.	Transl Psychiatry. 2024 Oct 2;14(1):404. (オンライン)	Original Article
129	Ohi K, Fujikane D, Shioiri T	精神科	Genetic overlap between schizophrenia spectrum disorders and Alzheimer's disease: Current evidence and future directions - An integrative review.	Neurosci Biobehav Rev. 2024 Dec;167:105900.	Original Article
130	Shioiri T, Nakashima M, Tsunekawa K	精神科	When can we identify the students at risk of failure in the national medical licensure examination in Japan using the predictive pass rate?	BMC Med Educ. 2024 Aug 27;24(1):930. (オンライン)	Original Article
131	Kuramitsu A, Ohi K, Shioiri T	精神科	Associations of polygenic risk scores differentiating attention-deficit hyperactivity disorder from autism spectrum disorder with cognitive and cortical alterations in Schizophrenia	Eur Child Adolesc Psychiatry. 2025 Mar;34(3):1149-1159.	Original Article
132	Nakamura Y, Ogawa H, Akiyama H	整形外科	Intraoperative reference points on the proximal tibia in image-free robotic-assisted total knee arthroplasty should be determined by preoperative posterior tibial slope.	Orthop Traumatol Surg Res. 2025 Feb 1:104180.	Original Article

133	Iwai C, Nozawa S, Fushimi K, et al	整形外科	Surgical management of omega deformity in a patient with neurofibromatosis type 1: a case report.	Eur Spine J. 2024 Jul;33(7):2897–2903.	Case Report
134	Ogawa H, Nakamura Y, Sengoku M, et al	整形外科	Postoperative onset lateral hinge fracture is a risk factor for delayed union of the tibial tuberosity in medial opening wedge distal tibial tuberosity osteotomy.	Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol. 2024 Jul 2;37:21–26. (オンライン)	Original Article
135	Komura S, Hirakawa A, Hirose H, et al	整形外科	Comparison of Surgical Outcomes for Arthrodesis and Arthroplasty for Thumb Carpometacarpal Osteoarthritis in Female Workers.	J Hand Microsurg. 2024 May 14;16(2):100033. (オンライン)	Original Article
136	Terabayashi N, Kawashima K, Asano H, et al	整形外科	Surgical Treatment of Heterotopic Ossification of the Bilateral Shoulder and Elbow Joints Caused by Burn Injury: A Case Report.	JBJS Case Connect. 2024 Aug 8;14(3). (オンライン)	Case Report
137	Watanabe S, Yoshikawa T, Hirot a Y, et al	整形外科	Impact of ICU-Based Extracorporeal Membrane Oxygenation and Blood Purification Therapy on the Time Required for Early Rehabilitation.	Cureus. 2025 Jan 19;17(1):e77685. (オンライン)	Original Article
138	Oboshi Y, Iwabuchi T, Takata Y, et al	整形外科	Cerebellar contribution to emotion regulation and its association with medial frontal GABA level.	Soc Cogn Affect Neurosci. 2025 Jan 29;20(1):nsae091.	Original Article
139	Watanabe S, Liu K, Hirot a Y, et al	整形外科	Investigating Dose Level and Duration of Rehabilitation of Mechanically Ventilated Patients in the ICU.	Respir Care. 2025 Mar;70(3):278–286.	Original Article
140	Watanabe S, Izumino H, Takatani Y, et al	整形外科	Effects of Energy Delivery Guided by Indirect Calorimetry in Critically Ill Patients: A Systematic Review and Meta-Analysis.	Nutrients. 2024 May 11;16(10):1452. (オンライン)	Original Article
141	Matsuo M, Zang X, Im D, et al	皮膚科	A case of multiple warty dyskeratomas overexpressing SERCA2 in acantholytic cells.	J Dermatol. 2025 May;52(5):925–928.	Case Report
142	Matsuo M, Kato H, Kobayashi K, et al	皮膚科	A case of pseudoangiomatous spindle-cell lipoma with unique MRI manifestations corresponding to distinct histological features.	J Dermatol. 2025 May;52(5):943–946.	Case Report

143	Tawada C, Ueda Y, Mizutani Y, et al	皮膚科	Oxidative Stress and Generalised Pustular Psoriasis: Report of d-ROM Measurements in Nine Cases Including Three of Pustular Psoriasis of Pregnancy.	Exp Dermatol. 2025 Mar;34(3):e70076.	Original Article
144	Kato N, Niwa H, Kobayashi K, et al	皮膚科	A case of exacerbation of radiation-induced ulceration after bullous pemphigoid onset.	J Dermatol. 2025 Feb 11.	Letter
145	Tozaki N, Tawada C, Tanaka K, et al	皮膚科	Diacron-Reactive Oxygen Metabolites Levels Are Initially Elevated in Patients with Bullous Pemphigoid.	JID Innov. 2024 Apr 16;4(4):100282. (オンライン)	Original Article
146	Im D, Ueda K, Niwa H, et al	皮膚科	A case of bullous pemphigoid associated with psoriasis showing no tissue-bound immunoglobulin G on the inflamed skin.	J Dermatol. 2025 Jan;52(1):e34–e35.	Letter
147	Matsuo M, Niwa H, Iwata H	皮膚科	A case of metastasis of giant basal cell carcinoma in oculocutaneous albinism.	J Dermatol. 2025 Jan;52(1):e43–e44.	Letter
148	Ichiki N, Okamura N, Niwa H, et al	皮膚科	Successful treatment of DRESS with narrowband UVB phototherapy.	J Dtsch Dermatol Ges. 2024 Dec;22(12):1672–1674.	Letter
149	Ueda K, Kato N, Niwa H, et al	皮膚科	A case of solitary encapsulated angiolympoid hyperplasia with eosinophilia in the hypodermis of possible lymph node origin.	J Dermatol. 2025 Feb;52(2):e170–e171.	Letter
150	Matsuo M, Zang X, Miyauchi T, et al	皮膚科	A case of revertant mosaic-like normal-looking spots in a patient with erythroderma with IL36RN and CARD14 heterozygous mutations.	J Dermatol. 2024 Dec;51(12):1669–1673.	Case Report
151	Matsuo M, Fukuda H, Buathong J, et al	眼科	Comparison of 1-year effectiveness between phaco-microhook ab-interno trabeculotomy and phaco-iStent trabecular micro-bypass stent in primary open-angle glaucoma with low-teen intraocular pressure.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2025 Jan;263(1):193–200.	Original Article
152	Matsuo M, Ichioka S, Harano A, et al	眼科	Minimally Invasive Direct Internal Cycloexy in the Management of Goniotomy-Related Cyclodialysis Cleft with Hypotony Maculopathy.	Int Med Case Rep J. 2024 May 27;17:545–553. (オンライン)	Case Report

153	Ando T, Kubota M, Yasukawa T, et al	眼科	Macular hole with retinal pigment epithelium tear after anti-VEGF therapy in an eye with neovascular age- related macular degeneration.	Am J Ophthalmol Case Rep. 2024 Jul 17;36:102126. (オンライン)	Case Report
154	Takahashi T, Matsuo M, Mochizuki K, et al	眼科	Bilateral Intraocular Involvement of Recurrent Mantle Cell Lymphoma with Remission of Pseudo- Uveitis and Secondary Glaucoma After Switching Treatment to Ibrutinib: A Case Report.	Ocul Immunol Inflamm. 2025 Apr;33(3):488-491.	Case Report
155	Yamada T, Kuroki M, Shibata H, et al	耳鼻咽喉科	Locally advanced maxillary sinus cancer fed from the internal carotid artery.	Eur Arch Otorhinolaryngol. 2025 Mar 28.	Original Article
156	Nagase N, Kousaki H, Ogawa B, et al	耳鼻咽喉科	Two-tone suppression between the ultrasounds above and within the hearing range in mice.	Exp Physiol. 2025 Feb 23.	Original Article
157	Ueda N, Kuroki M, Shibata H, et al	耳鼻咽喉科	Immune-Modified Glasgow Prognostic Score Predicts Therapeutic Effect of Pembrolizumab in Recurrent and Metastatic Head and	Cancers (Basel). 2024 Dec 3;16(23):4056. (オンライン)	Original Article
158	Umeda M, Kuroki M, Kato H, et al	耳鼻咽喉科	CT scoring system for differentiating of sinonasal inverted papilloma and squamous cell carcinoma arising from inverted papilloma.	Eur Arch Otorhinolaryngol. 2025 May;282(5):2533-2538.	Original Article
159	Kato R, Iinuma R, Hidaka H, et al	耳鼻咽喉科	A nationwide survey of dysphagia as a complication of deep neck infection with abscess in Japan.	Auris Nasus Larynx. 2025 Feb;52(1):84-89.	Original Article
160	Kawaura R, Shibata H, Okuda H, et al	耳鼻咽喉科	Impact of the COVID- 19 Infection on Head and Neck Cancer Treatment During Hospitalization.	Cureus. 2024 May 19;16(5):e60578. (オンライン)	Original Article
161	Kuroki M, Shibata H, Kobayashi K, et al	耳鼻咽喉科	Postoperative pathological findings and prognosis of early laryngeal and pharyngeal cancer treated with transoral surgery.	Auris Nasus Larynx. 2024 Dec;51(6):976-983.	Original Article
162	Tobisawa Y, Nakane K, Koie T, et al	泌尿器科	Low GCNT2/I- Branching Glycan Expression Is Associated with Bladder Cancer Aggressiveness.	Biomedicines. 2025 Mar 10;13(3):682. (オンライン)	Original Article
163	Kato H, Nakane K, Okamoto A, et al	泌尿器科	Clinical predictors associated with prolonged pneumoperitoneum time in laparoscopic living donor	Clin Exp Nephrol. 2025 Mar 26.	Original Article

164	Kawase M, Washino S, Nishino T, et al	泌尿器科	Neoadjuvant Chemohormonal Therapy Versus Pelvic Lymphadenectomy on Biochemical Recurrence in Patients with High- or Very-High-Risk Prostate Cancer Undergoing Robot-Assisted Radical Prostatectomy.	Diseases. 2025 Mar 23;13(4):92. (オンライン)	Original Article
165	Murase K, Nakane K, Kawase M, et al	泌尿器科	Metastatic Urothelial Carcinoma With Sarcomatoid Subtype After Robot-Assisted Radical Cystectomy Successfully Treated With Pembrolizumab.	Cureus. 2024 Jun 7;16(6):e61871. (オンライン)	Case Report
166	Nakane K, Okamoto A, Kato H, et al	泌尿器科	Significance of split-dose cisplatin-based neoadjuvant chemotherapy followed by robotic-assisted radical cystectomy for muscle invasive bladder cancer.	Transl Androl Urol. 2025 Mar 30;14(3):589-601.	Original Article
167	Nishiwaki T, Kawase K, Nishino Y, et al	泌尿器科	Prediction of nocturnal polyuria in patients with nocturia based on voiding frequency.	Int Urol Nephrol. 2025 Feb 16.	Original Article
168	Yokoyama Y, Kawase M, Ebara S, et al	泌尿器科	Efficacy and safety of neoadjuvant chemohormonal therapy for high-risk prostate cancer treated with robot-assisted laparoscopic radical prostatectomy: a propensity score-matched analysis (the MSUG94 group).	Int Urol Nephrol. 2025 Mar;57(3):809-816.	Original Article
169	Taniguchi T, Muraoka K, Nishikawa K, et al	泌尿器科	Impact of platelet-lymphocyte ratio after robot-assisted partial nephrectomy with renorrhaphy.	Sci Rep. 2024 Dec 28;14(1):30986. (オンライン)	Original Article
170	Koie T	泌尿器科	The usefulness of Hinotoria? which is a surgical support robot system developed in Japan and a challenging case of robot-assisted surgery.	Transl Cancer Res. 2024 Nov 30;13(11):5723-5724.	Original Article
171	Taniguchi T, Iinuma K, Kawada K, et al	泌尿器科	Real-World Oncological Outcomes of Nivolumab Plus Ipilimumab in Advanced or Metastatic Renal Cell Carcinoma: A Multicenter, Retrospective Cohort Study in Japan.	Curr Oncol. 2024 Dec 11;31(12):7914-7923. (オンライン)	Original Article

172	Kumada N, Iinuma K, Kubota Y, et al	泌尿器科	Impact of Cytoreductive Nephrectomy in the Management of Metastatic Renal Cell Carcinoma: A Multicenter Retrospective Study.	Diseases. 2024 Jun 4;12(6):122. (オンライン)	Original Article
173	Kawase K, Kamijo TC, Kusakabe N, et al	泌尿器科	Effects of low-intensity extracorporeal shock wave on bladder and urethral dysfunction in spinal cord injured rats.	Int Urol Nephrol. 2024 Dec;56(12):3773-3781.	Original Article
174	Ito H, Nakane K, Hagiwara N, et al	泌尿器科	Impact of Robotic- Assisted Partial Nephrectomy with Single Layer versus Double Layer Renorrhaphy on Postoperative Renal Function.	Curr Oncol. 2024 May 13;31(5):2758-2768. (オンライン)	Original Article
175	Tomioka M, Nakane K, Kawase M, et al	泌尿器科	Discrepancy in the Location of Prostate Cancer Indicated on Biparametric Magnetic Resonance Imaging and Pathologically Diagnosed Using Surgical Specimens.	Curr Oncol. 2024 May 16;31(5):2846-2855. (オンライン)	Original Article
176	Kawase M, Nakane K, Iinuma K, et al	泌尿器科	Overall Survival and Cancer-Specific Mortality in Patients with Prostate Cancer Undergoing Definitive Therapies: A Narrative Review.	J Clin Med. 2024 Sep 19;13(18):5561. (オンライン)	Original Article
177	Nakane K, Kawase M, Kato D, et al	泌尿器科	Combination approach using neoadjuvant therapy with radical prostatectomy for improving oncological outcomes of high-risk prostate cancer: a narrative review.	Transl Cancer Res. 2024 Jul 31;13(7):3889-3897.	Original Article
178	Nakane K, Taniguchi K, Nezasa M, et al	泌尿器科	Oncologic Outcomes of Patients with Immune Checkpoint Inhibitor Resistant Urothelial Carcinoma Treated with Enfortumab Vedotin and the Impact of Neutrophil-to- Lymphocyte Ratio and Dysgeusia on Overall Survival: A Retrospective	Cancers (Basel). 2024 Jul 25;16(15):2648. (オンライン)	Original Article
179	Ozeki M, Endo S, Yasue S, et al	小児科	Sirolimus treatment for intractable vascular anomalies (SIVA): An open-label, single-arm, multicenter, prospective trial.	Pediatr Int. 2025 Jan- Dec;67(1):e70002.	Original Article
180	Ando M, Kubota K, Kadowaki S, et al	小児科	Atypical hemolytic uremic syndrome with a C3 variant following COVID-19: a case report.	Front Pediatr. 2025 Jan 23;13:1507727. (オンライン)	Case Report

181	Ozeki M, Tanaka A, Kuniyeda K, et al	小児科	A phase 2 randomized, double-blind trial of ART-001, a selective PI3KI± inhibitor, for the treatment of slow-flow vascular malformations.	Orphanet J Rare Dis. 2025 Feb 10;20(1):64. (オンライン)	Original Article
182	Otsuka H, Hirakawa E, Yara A, et al	小児科	Impact of video-assisted neonatal resuscitation on newborns and resuscitators: A feasibility study.	Resusc Plus. 2024 Nov 2;20:100811. (オンライン)	Original Article
183	Kawamoto N, Murai H, Nogami K, et al	小児科	Efficacy and safety of systemic targeted therapies for atopic dermatitis in children: A systematic review and meta-analysis.	Allergol Int. 2025 Feb 4:S1323-8930(25)00001-2.	Original Article
184	Yasue S, Ozeki M, Nozawa A, et al	小児科	Changes in cell morphology and function induced by the NRAS Q61R mutation in lymphatic endothelial cells.	PLoS One. 2024 May 29;19(5):e0289187. (オンライン)	Original Article
185	Kubota K, Adachi M, Fujii H, et al	小児科	Spontaneous Remission of Epileptic Seizures Following Norovirus Infection in a Patient With DNMT1 Encephalopathy.	Cureus. 2024 May 21;16(5):e60748. (オンライン)	Case Report
186	Matsumoto H, Sasai H, Kawamoto N, et al	小児科	Loss-of-function polymorphisms in NQO1 are not associated with the development of subacute myelo-optico-neuropathy.	Mol Genet Genomic Med. 2024 Jun;12(6):e2470.	Original Article
187	Nozawa A, Abe T, Niihori T, et al	小児科	Lymphatic endothelial cell-specific NRAS p.Q61R mutant embryos show abnormal lymphatic vessel morphogenesis.	Hum Mol Genet. 2024 Aug 6;33(16):1420-1428.	Original Article
188	Xiao Y, Sasai H, Matsumoto H, et al	小児科	Functional Analysis of Novel Variants Located in the Tetramerization Loop of ACAT1.	Tohoku J Exp Med. 2024 Nov 7.	Original Article
189	Adachi M, Horita R, Miwa T, et al	小児科	Frequency and Mental Health Condition of Students with Developmental Disabilities Among First-Year Japanese University Students: A Cross-Sectional Survey.	J Autism Dev Disord. 2024 Oct 16.	Original Article
190	Miyazaki T, Hayashi D, Nozawa A, et al	小児科	Population pharmacokinetic analysis of sirolimus in Japanese pediatric and adult subjects receiving tablet or granule formulations.	Drug Metab Pharmacokinet. 2024 Dec;59:101024.	Original Article

191	Kumagai C, Kawamoto N, Miwa Y, et al	小児科	Questionnaire-based real-world survey of diagnosing food allergy in children: Utilization of oral food challenge tests and other diagnostic methods.	J Allergy Clin Immunol Glob. 2024 Oct 18;4(1):100356. (オンライン)	Original Article
192	Shiga T, Okada H, Isobe M, et al	産婦人科	Tissue damage between barbed suture and conventional sutures in animal laboratory model using scanning electron microscopy.	J Obstet Gynaecol. 2024 Dec;44(1):2370973.	Original Article
193	Fukuda Y, Okada H, Tomita H, et al	高次救命治療センター	Nafamostat mesylate decreases skin flap necrosis in a mouse model of type 2 diabetes by protecting the endothelial glycocalyx.	Biochem Biophys Res Commun. 2024 May 28;710:149843.	Original Article
194	Kamidani R, Chiba N, Kuroda A, et al	高次救命治療センター	Successful Therapeutic Leukapheresis for Chronic Myeloid Leukemia Identified by Persistent Erection: A Case Report.	Cureus. 2024 May 30;16(5):e61351. (オンライン)	Case Report
195	Miura T, Chiba N, Suzuki K, et al	高次救命治療センター	Man With Blunt Neck Trauma.	Ann Emerg Med. 2024 Nov;84(5):587–588.	Original Article
196	Washizaki A, Sakiyama A, Ando H	検査部	Phage-specific antibodies: are they a hurdle for the success of phage therapy?	Essays Biochem. 2024 Dec 17;68(5):633–644.	Original Article
197	Hanamatsu Y, Saigo C, Sonobe H, et al	病理部	A xenotransplantable malignant deciduoid mesothelioma-cell line, D-Meso-Sonobe.	Hum Cell. 2024 Jul;37(4):1226–1228.	Letter
198	Kodama D, Takenaka M, Saigo C, et al	病理部	SOX17 expression in ovarian clear cell carcinoma.	J Ovarian Res. 2024 Nov 11;17(1):221. (オンライン)	Original Article
199	Hanamatsu Y, Saigo C, Takeuchi T	病理部	T-Cadherin in Biliary Tract Cancer Stroma, a Potent Pharmacological Target for Biliary Tract Carcinogenesis.	Cancer Innov. 2025 Feb 28;4(2):e70001. (オンライン)	Original Article
200	Tetsuka N, Suzuki K, Suzuki K, et al	成育医療センター	Adverse events of COVID-19 vaccination during 2021–2022 suppressed by breakfast consumption and favorable sleeping habit among Japanese university students.	Vaccine X. 2024 Jun 22;19:100516. (オンライン)	Original Article
201	Mori Y, Miyatake S, Kunieda K, et al	脳神経内科	A cerebellar ataxia patient harboring 229 pure GAA repeat units in FGF14 presenting with grip myotonia	NEUROL CLIN NEUROSCI.2024 MAY:12(6):3	Original Article
202	Yamahara N, Yoshikura N, Kimura A, et al	脳神経内科	Obsessive-compulsive disorder as an initial manifestation of anti-glutamic acid decarboxylase antibody-associated encephalitis	NEUROL CLIN NEUROSCI.2024 MAY:12(6):3	Original Article

203	Iwata K, Yoshikura N, Kimura A, et al	脳神経内科	Encephalitis mediated by the olfactory pathway can occur even during predominance of the Omicron mutant strain	NEUROL CLIN NEUROSCI.2024 JUN:12(6):2	Original Article	
204	Komura S, Hirakawa A, Hirose H, et al	整形外科	How does Fixation Alignment Affect Surgical Outcomes in Arthrodesis for Thumb Carpometacarpal Osteoarthritis?	J WRIST SURG.2024 JUL:7	Original Article	計205件
205	Enomoto T, Okamoto A, Kato H, et al	泌尿器科	Surgical outcomes and perioperative complications of robot-assisted radical cystectomy with intracorporeal ileal neobladder: a narrative review	J VISUAL SURG.2024 SEP:10:10	Review	

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）；巻数：該当ページ」の形式で記載すること（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。  
記載例： Lancet. 2015 Dec; 386: 2367–9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

計0件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容 研究等の責任者、研究等の立案・提出、多機関共同研究、利益相反の確認等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適當な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の主な内容 所掌業務、組織、任期、会議等	
③ 利益相反を審査し、適當な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年13回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年30回
・ 研修の主な内容 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針について、臨床研究法について、倫理審査委員会申請書類について等	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

岐阜大学医学部附属病院は、先進医療を提供し、地域医療の中核を担う能力を備えた医師を育成するため、2年間の初期研修を修了した医師を対象に、その分野での卓越した専門医の育成を行っている。

○優れた指導医によるきめ細かい指導体制

優れた知識と経験をもつ多数の指導医の下で質の高い研修を実施。

メジャーな診療科だけでなく大学病院ならではのマイナー科と呼ばれる診療科にも多数の指導医を配置。

○豊富な知識・経験を持つ専門医を育成

大学病院や関連病院で豊富な臨床経験を積む中で、基礎的な力を養いながら専門医を取得できる。また、大学院へ進むことも可能で、希望者は基礎研究、臨床研究を行い、医学博士の取得を目指すことができる。

○豊富な機材を利用したシミュレーション教育

岐阜大学医学部附属病院が所有している内視鏡外科手術トレーニングセンターのシミュレーターを利用したトレーニングを実施。

○研修例

・1年目 岐阜大学病院

・2～3年目 連携施設

・4年目以降 専門医取得→各種領域専門医申請

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	95人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
末次 淳	内科・消化器内科	副科長	27年	
兼村 信宏	内科・血液内科	副科長	26年	
金森 寛充	内科・循環器内科	准教授	27年	
津端 由佳里	内科・呼吸器内科	科長	18年	
安田 宜成	内科・腎臓内科	特任教授	30年	
恒川 新	内科・糖尿病・内分泌代謝内科	科長	28年	
下畑 享良	内科・脳神経内科	科長	34年	
森 一郎	膠原病・免疫内科・総合診療科	副科長	21年	
土井 潔	外科・心臓血管外科	科長	36年	
岩田 尚	外科・呼吸器外科	科長	36年	
松橋 延壽	外科・消化器外科	科長	29年	
二村 学	外科・乳腺外科	科長	37年	
早崎 容	産婦人科	医局長	28年	
野澤 聰	整形外科	医局長	27年	
江頭 裕介	脳神経外科	医局長	23年	
久富 智朗	眼科	科長	30年	

小川 武則	耳鼻咽喉科	科長	27年	
岩田 浩明	皮膚科	科長	26年	
古家 琢也	泌尿器科	科長	31年	
大井 一高	精神科	副科長	20年	
大西 秀典	小児科	科長	27年	
安藤 知広	放射線科	医局長	13年	
林 慶州	麻酔科	医局長	16年	
岡田 英志	救急科	科長	27年	
山田 陽一	歯科口腔外科	科長	30年	
青木 隆明	リハビリテーション部	副部長	34年	
加藤 久和	形成外科	科長	37年	
渡邊 崇量	検査部	副部長	22年	
宮崎 龍彦	病理部	副部長	34年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

## (様式第4)

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

## 4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

## ① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

## 検査部

研修の主な内容	期間・実施回数	参加人数
検査部セミナー及び予演会	2024/5/2～2025/3/6 8回	8～31名
血液ガス分析装置ABL90の操作説明及びメンテナンス	2024/4/25～2024/4/25 1回	14名
新規超音波検査の説明会	2024/8/20～2024/8/23 1回	17名
パニック値報告内容記録について	2024/11/18～2024/11/29 1回	31名
搬送ラインの運用変更について	2024/12/11～2024/12/21 1回	29名
血液検査パニック値に係る死亡事例の分析（提言書）	2024/12/12～12/22 1回	32名
ウイルス性肝炎に係るHCV RNAとHBV DNAについて	2025/3/7 1回	8名

## 看護部

研修の主な内容	期間・実施回数	参加人数
がん看護ELNEC-J研修： 所属部署でがん看護に関する役割モデルとなる看護師の育成	令和6年8月開催 全2回×8時間	院内12名+ 院外受講生 12名
フィジカルイグザミネーション研修： フィジカルイグザミネーションの知識と技術を習得する	令和6年8月開催 全4回×3時間	77名
フィジカルアセスメントⅠ研修： 患者から得られた情報の解釈	令和6年9月開催 全4回×3時間	65名
フィジカルアセスメントⅡ研修： 急変予測のための気づき研修	令和6年9月～11月開催 全4回×3.5時間	46名
フィジカルアセスメントⅢ研修： 情報の統合	令和6年9月開催 1回×7時間	15名
抗がん剤・生物学的製剤投与ライン教育プログラム（ 末梢静脈ルート）	令和6年5月～11月 全5回×60分	100名
抗がん剤・生物学的製剤投与ライン教育プログラム（ 中心静脈ポート）	令和6年8月～12月間 全3回×1時間+ 演習2時	66名

## 放射線部

研修の主な内容	期間・実施回数	参加人数
診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等）、診療用放射線照射装置に係る定期研修会	第1回（令和6年9月17日～27日） 第2回（令和7年5月7日～15日） 2回／年 ＊年度内の日程調整ができず次年度開催となつた	第1回18名 第2回17名
医療機器更新に伴う研修会（高線量率密封小線源治療装置）	令和7年1月23日	27名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

検査部

研修の主な内容	期間・実施回数	参加人数
IS015189 : 2022版 品質マニュアル改訂に伴う2次文書	2024/5/1 1回	6名
IS015189:2022版 移行に伴う文書改訂ポイント	2024/6/20 1回	77名
IS015189機能組織図の共有及び周知	2024/8/19～2024/8/26 1回	71名
ISO教育訓練	2024/11/1～2024/11/25 2回	81名
インシデント内容情報共有と検査前プロセスの再周知	2025/1/27～2025/1/31 1回	50名
一次サンプル採取マニュアル手順書の改訂	2025/3/10～2025/3/31 1回	73名

看護部

研修の主な内容	期間・実施回数	参加人数
リーダーのあり方と問題解決： リーダーシップ、問題解決技法、自部署の業務改善と実践報告会の開催	令和6年5月～令和7年1月開催 17.5時間	11名
リーダーナースとしての業務管理： 組織における自身の位置づけと役割を理解し業務を遂行する上でリーダーとしての物品管理について必要な知識を習得する	令和6年7月開催 講義1.5時間	15名
災害看護 I～II： 大規模災害における大学病院や看護師の役割を学び、患者の安全、指示命令系統、情報伝達、治療について理解できる。シミュレーション研修の実施	令和6年11月～令和7年2月 講義・演習 17.5時間	123名

放射線部

研修の主な内容	期間・実施回数	参加人数
特定放射性同位元素防護に関する教育訓練	令和6年4月25日、5月2日 1回／年	30名
診療用放射線の安全利用のための研修	令和6年7月1日～9月6日 1回／年	1, 194名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

検査部

研修の主な内容	期間・実施回数	参加人数
心エコーカンファレンス (心筋症・経食道エコー・脳梗塞についてなど)	2024/5/29～2025/3/26 6回	19～40名
岐阜医療圏地域コンソーシアム関連活動 (各検査室の情報交換： 岐阜市民病院・岐阜県総合医療センター・松浪総合病院)	2024/7/14～2025/3/10 4回	160名

看護部

研修の主な内容	期間・実施回数	参加人数
がん看護ELNEC-J研修を他の医療機関の看護師への公開研修としている（前述）	令和6年8月開催 2日間で実施 8時間 ×2	5施設の看護師12名 参加

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 秋山 治彦	
管理担当者氏名	事務部長 総務課長 経営管理課長 医事課長 医療支援課長 看護部長 感染制御室長 放射線部長 高次救命治療センター長 薬剤部長	加藤 尚弘 坪井 豊 加藤 弘之 山口 誠 佐藤 晃 深尾 亜由美 馬場 尚志 松尾 政之 岡田 英志 鈴木 昭夫

保管場所	管 理 方 法
病院日誌	医事課
各科診療日誌	各診療科
処方せん	薬剤部
手術記録	手術部
看護記録	看護部
検査所見記録	医事課
エックス線写真	放射線部
紹介状	医事課
退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課
従業者数を明らかにする帳簿	総務課
高度の医療の提供の実績	医事課
高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部事務部臨床研究係
高度の医療の研修の実績	総務課
閲覧実績	総務課・医療支援課
紹介患者に対する医療提供の実績	医療支援課
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部
医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	医療安全管理室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録  規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課	法律の規定に定められた保存年数を「東海国立大学機構法人文書管理規程」に基づき保管している。
	院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課	
	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	感染制御室	
	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要な未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器安全管理責任者の配置状況	医療支援課	
	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療支援課	
	医療機器の安全使用のために必要な情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	医療支援課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録  規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室	法律の規定に定められた保存年数を「東海国立大学機構法人文書管理規程」に基づき保管している。
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課	
	医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
	医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課	
	診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療録管理室	
	医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室	
	高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
	未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
	監査委員会の設置状況	総務課	
	入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室	
	他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課	
	医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	東海国立大学機構監査室	
	職員研修の実施状況	総務課	
	管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課	
	管理者が有する権限に関する状況	総務課	
	管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	東海国立大学機構監査室	
	開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	東海国立大学機構総務部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容 :</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理に関する基本的な考え方</li> <li>2. 医療安全のための組織</li> <li>3. 医療安全管理のための職員研修・教育</li> <li>4. インシデント報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善方策</li> <li>5. 医療事故等の発生時の対応</li> <li>6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>7. 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>8. 医療安全管理の推進</li> <li>9. 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供</li> </ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無 ( 有・無 )</li> <li>・ 開催状況 : 年 12 回</li> <li>・ 活動の主な内容 :</li> </ul> <p>以下の事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること。</li> <li>2. 医療安全管理のための職員研修に関すること。</li> <li>3. 医療事故及びインシデントに関する情報の収集並びに原因の究明のための調査及び分析に関すること。</li> <li>4. 前号の分析の結果を活用した改善の方策の立案及び実施並びに職員への周知に関するここと。</li> <li>5. 前号の改善の方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関するここと。</li> <li>6. 入院患者の死亡報告及び3 b 以上のインシデント報告の実施状況の確認に関するここと。</li> <li>7. 前号の実施状況が不十分な場合における職員への研修及び指導に関するここと。</li> <li>8. 医療安全マニュアルの作成に関するここと。</li> <li>9. その他医療事故防止に関するここと。</li> </ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 1 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容 (すべて) :</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 全職員対象研修会 (2回) <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1回 画像診断報告書の確認不足 医療事故調査制度</li> <li>○ 第2回 外科系医師 (手技を行う医療スタッフ) のためのノンテクニカルスキル</li> </ul> </li> <li>2) 新入職員研修会 : 病院採用職員・医学部採用の臨床系職員 (医師含) (1回) <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 病院の医療安全管理体制について</li> </ul> </li> <li>3) 看護師新任リスクマネジャー研修 (1回) <ul style="list-style-type: none"> <li>○ リスクマネジャーの役割、インシデント報告システム機能等について</li> </ul> </li> <li>4) 研修医オリエンテーション (1回) <ul style="list-style-type: none"> <li>○ インシデントレポートについて</li> </ul> </li> </ol>	

5) 看護師研修

- 心電図モニタの取扱いについて（1回）
- 安全な療養環境（チューブトラブル・転倒転落予防）（1回）
- 静脈注射看護師育成研修（安全対策）（1回）

6) 看護補助者研修（7回）

- 医療安全について

7) 看護部職場復帰直前プログラム（3回）

- 医療安全について（復習と最近の動向）

8) BLS研修

- 医師・看護師以外の医療従事者対象（4回）
- 事務職員対象（4回）
- 看護部初心者対象（1回）
- ラダーレベルⅡ以上の看護師対象（4回）（看護部教育と協働）

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）
- ・ その他の改善の方策の主な内容：
- ・ 医療安全管理室員会議では、週報をもとに事例の確認及び改善策等の検討を行った。（45回開催）
- ・ 拡大医療安全管理室員会議では、院内での専門的検討が必要と判断した事例について、原因究明に関すること、再発防止策の提言に関するこことについて審議した。（8回開催）
- ・ 各部署のリスクマネジャーで構成されるリスクマネジヤー会議では、医療安全に関する業務改善等の情報共有、意見交換等を行った。（5回開催）

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容 :</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>2. 病院感染対策の組織</li> <li>3. 職員教育・研修に関する基本方針</li> <li>4. 感染症発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. 病院感染発生時の対応に関する基本指針</li> <li>6. 患者への情報提供と説明</li> <li>7. 病院感染対策の推進</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容 :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院感染の発生状況、抗菌薬の使用状況について</li> <li>・ 病院感染対策の検討および推進に関すること</li> <li>・ 病院感染対策に係る職員研修の企画に関すること</li> <li>・ 病院感染対策に係る啓発及び広報に関すること</li> <li>・ 病院感染発生時の医療現場との連絡調整に関すること</li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 25 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容 (すべて) :</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 全職員対象研修会           <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染対策 : 「みんなで取り組もう！手指衛生と針刺し対策」</li> <li>・ 抗菌薬適正使用 : 「みんなで取り組もう！抗菌薬適正使用～“予防的”抗菌薬について考える～」</li> </ul> </li> <li>第2回               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染対策 : 「今、我々に求められる感染対策」</li> <li>・ 抗菌薬適正使用 : 「カテール関連尿路感染症～予防から治療まで～」</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2) 新採用・中途採用職員研修（全職種）（12回）           <ul style="list-style-type: none"> <li>医療関連感染対策の基本</li> </ul> </li> <li>3) 研修医対象           <ul style="list-style-type: none"> <li>手指衛生、個人防護具着脱の方法と実際（1回）（新採用薬剤師含む）</li> </ul> </li> <li>4) 新人看護師研修           <ul style="list-style-type: none"> <li>手指衛生、個人防護具着脱の方法と実際（1回）</li> <li>標準予防策と経路別予防策 講義と演習（1回）</li> <li>血管内留置カテーテル関連血流感染、針刺し防止対策（1回）</li> </ul> </li> <li>5) レベルI看護師研修           <ul style="list-style-type: none"> <li>医療関連感染対策 講義と演習（1回）</li> </ul> </li> <li>6) 看護補助者研修（1回）           <ul style="list-style-type: none"> <li>感染対策について 講義と演習（1回）</li> </ul> </li> <li>7) 育休復帰予定者対象育児復帰支援プログラム（3回）           <ul style="list-style-type: none"> <li>感染対策について 講義</li> </ul> </li> <li>8) 外部委託業者（清掃）対象           <ul style="list-style-type: none"> <li>感染対策について 講義と演習（1回）</li> </ul> </li> </ol>	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (  有 ·  無 )
- ・ その他の改善の方策の主な内容 :
  - ・ 院内感染サーベイランスの実施と分析・評価
  - ・ アウトブレイクを疑う際の、各部署からの情報収集及び情報共有の強化、対策の指導徹底
  - ・ ICTミーティングと病院内ラウンド（51回実施）による医療関連対策の徹底
  - ・ 抗菌薬の適正使用推進のための抗菌薬適正使用支援チームによる抗菌薬投与患者の評価および介入
  - ・ 職員対象の予防接種（インフルエンザ、B型肝炎ワクチン、麻疹・風疹・水痘・ムンプスワクチンなど）の実施

(注) 前年度の実績を記入すること。

## 規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
・ 研修の主な内容 :	
2024年4月1日 新入職員研修会 2024年5月29日 新規採用看護師研修会 2024年7月1日～7月31日 第1回医療安全感染対策研修会 2025年2月1日～2月28日 第2回医療安全感染対策研修会	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 ( 有・無 ) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容 :	
業務手順書は電子カルテのオンラインマニュアル内に掲載して、常に業務手順が確認できるようにしておらず、必要に応じて随時改訂を行っている(2024年度は6月、9月、12月および3月に改訂)。また、業務手順書に準拠したチェックリストを作成して、年2回、院内全部署を対象として業務の実施状況を評価している(2024年度は7月および2月に実施)。業務手順書が遵守できていない状況が認められれば、業務の見直し、改善を行うよう指導している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( 有・無 ) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :	
下記の未承認新規医薬品等の使用については、高難度新規医療技術等評価委員会又は生命倫理を伴う緊急医療行為実施協議会にて承認のうえ実施した。 ・ 未承認新規医薬品 : 2件 例) 2024年6月に人工血管感染症例に対して0.1%リファンピシン液の投与を実施した。 ・ 未承認医薬品(院内製剤を含む) : 2件 例) 2025年2月に難治性ウイルス性出血性膀胱炎症例に対してシドフォビル注の投与を実施した。 ・ 禁忌使用医薬品 : 0件 ・ 適応外使用医薬品 : 84件 例) 2024年4月にステロイド抵抗性のTAFRO症候群に対するシスクロポリン療法を実施した。 ・ その他の改善の方策の主な内容 :	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年61回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新規購入医療機器 (22回)</li> <li>○人工心肺装置及び補助循環装置 (1回)</li> <li>○人工呼吸器 (12回)</li> <li>○血液浄化機器 (2回)</li> <li>○除細動装置及び自動体外式除細動器 (4回)</li> <li>○閉鎖式保育器 (3回)</li> <li>○診療用高エネルギー放射線発生装置 (1回)</li> <li>○診療用放射線照射装置 (1回)</li> <li>○その他（非侵襲的人工呼吸器、医療機器電気安全、電気メス、脳・組織酸素飽和度モニタ、汎用血液ガス分析装置、輸液ポンプ・シリングポンプ、酸素飽和度モニター、微量血液凝固計、心電計、一酸化窒素ガス管理システム、経腸栄養ポンプ、逐次型空気圧式マッサージ器、体温管理システム・経皮血液ガスマニタ、加温加湿器） (15回)</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 ( 有・無 )</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容 :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人工呼吸器、人工心肺装置、除細動装置、十二誘導心電計、血液浄化装置、輸液ポンプ、シリングポンプ、超音波ネブライザー、保育器は使用毎の保守点検を医療機器センターで実施</li> <li>○放射線装置は期限毎に業者と保守点検の契約を結び実施（機器により、半年から2年毎）</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば） :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その他の改善の方策の主な内容 :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人工呼吸器について <ul style="list-style-type: none"> <li>：医療機器センター技士による人工呼吸器管理中患者のラウンドを毎日実施</li> <li>呼吸療法支援チームの活動として、病棟の人工呼吸器管理患者のラウンドを週2回実施</li> <li>会議では人工呼吸器関連のインシデント報告や情報を検討し院内に周知</li> </ul> </li> <li>○医療機器の添付文書等の収集、PMDAメディナビへの登録を実施し情報収集</li> <li>○医療機器に関する院内の安全情報をメーカーMEセンターから医療安全管理室に集めており、必要に応じて、院内全体または該当部署に「安全情報」「医療安全トピックス」の配付などにより周知</li> <li>○医療機器の不具合、医療機器に関連した健康被害が発生した際も医療安全管理室に報告</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

## 規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・責任者の資格（医師・歯科医師）</li><li>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</li></ul>	
<p>医療安全管理の統括責任者として医療安全管理責任者を置き、医療安全を担当する副病院長（医療安全管理室長）をもって充て医療安全管理室及び医療安全管理委員会を統括している。院内感染対策安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、診療放射線安全管理責任者は医療安全管理委員会の構成員となっており、医療安全管理責任者が各責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（3名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</li></ul>	
<p>厚生労働省、PMDA、製薬会社、書籍、インターネット等より、常に最新の医薬品情報を収集している。収集した情報は評価・加工して、DIニュースにより医療スタッフ（医師、看護師等）へ情報を発信している（2024年度は70件のDIニュースを発信している）。全職員への周知のため、周知確認表に基づいた閲覧確認を行っており、また、各病棟担当薬剤師からも直接情報提供を行っている。院内ホームページや電子カルテ医薬品情報システムでは、全ての医療スタッフが最新の添付文書等を閲覧できる環境を整備するとともに、各種の医薬品情報を随時配信している。</p>	
<ul style="list-style-type: none"><li>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</li></ul>	
<p>1. 未承認薬の使用 院内で使用されている未承認薬としては、院内製剤（クラスI：15品目、クラスII：18品目）および治験薬がある。院内製剤は、倫理審査委員会の審査・承認後に運用を開始している。治験薬は治験審査委員会の審査・承認後に使用している。なお、個人輸入等による未承認薬については、未承認新規医薬品評価委員会を設置している。</p>	
<p>2. 禁忌・適応外薬の使用 禁忌・適応外薬の使用は原則として認めていない。やむを得ず使用する場合は臨床倫理室の審査・承認が必要である。申請方法としては、（1）日常診療の中で科学的根拠があり比較的安全性の高い薬剤は“疾患ごと”に審査・承認しており、（2）治療抵抗性があり生命の危険が伴う場合に延命等の目的で適応外使用する場合（主に抗がん剤や免疫抑制剤）は“症例ごと”に「生命倫理を伴う緊急医療行為実施協議会」にて審査・承認後に使用している。 なお、これまでに疾患ごとの適応外使用は170件が審査・承認（2024年は59件追加）されており、症例ごとの禁忌・適応外使用は2024年度は84件が審査・承認されている。事例については治療経過や効果判定も含め薬剤部のデータベースに記録している。</p>	
<ul style="list-style-type: none"><li>・担当者の指名の有無（有・無）</li></ul>	
<ul style="list-style-type: none"><li>・担当者の所属・職種：</li></ul>	
（所属：薬剤部、職種 副薬剤部長 ）	（所属：臨床倫理室、職種 医師 ）
（所属：薬剤部、職種 副薬剤部長 ）	（所属： ，職種 ）

(所属：薬剤部、職種 副薬剤部長 )	(所属： , 職種 )
(所属：臨床倫理室、職種 教員 )	(所属： , 職種 )
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 · <input type="checkbox"/> 無 )	
<p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>：当院の定める「インフォームド・コンセントの運用に関する事項」に則り、診療録管理委員会に属する委員（主に医師）と医事課診療情報管理係員が、年に2回の診療録の質的点検で監査を行っている。その内容は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日、実施者、実施相手の記載および同意したか否かが記載されているか。</li> <li>・説明後の患者・家族等の反応が記載されているか。</li> <li>・「医療安全マニュアル」の“同意書を取得する範囲”に定められている医療行為について同意書が取得されているか。</li> </ul> <p>監査の結果については、集計結果をIC委員会、診療録管理委員会、科長会議、医局長等合同会議で報告するとともに、診療科へ持ち帰りフィードバックするよう促している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容 :</li> <li>・ 診療録の保管及び管理のこと。</li> <li>・ 診療録の内容点検及び記載指導のこと。</li> <li>・ 診療録管理室が管理する診療録の閲覧のこと。</li> <li>・ その他診療録の管理のこと。</li> </ul>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（11）名           <ul style="list-style-type: none"> <li>うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（4）名</li> <li>うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名</li> <li>うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（4）名</li> </ul> </li> </ul> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容 :</li> </ul> <p>○事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行う。</p>	

- 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行う。
- 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行う。
- 医療の安全に係る啓発及び広報に関すること。
- 医療の安全確保のため、医療現場との連絡調整に関すること。
- 医療の安全確保に係る職員研修の企画立案に関すること。
- インシデントに関する情報の収集及び分析、関係資料の作成に関すること。
- 医療事故再発防止対策等の立案と周知徹底並びに改善に関すること。
- 医療の安全確保のための院内の体制整備に関すること。
- 死亡退院事例の検証に関すること。
- 医療安全管理委員会に係る事務に関すること。
- 医療の安全確保に資する診療状況の把握及び職員の医療安全の認識状況の確認に関すること。
- その他医療の安全対策及び医療の質の向上に関すること。

○医療安全に資する診療内容のモニタリングの具体例

4項目（24時間以内の再手術件数、術後の肺塞栓発生件数、入院患者の転倒・転落発生率及び負傷率、がん化学療法後の計画外入院と化学療法の関連性）についてモニタリングを実施し、毎月の医療安全管理委員会にて報告している。

○従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例

全職員対象の医療安全研修会において小テストを実施し、医療安全の認識についてモニタリングを実施している。また、院内ラウンドにおいて、医療安全に関するトピックスについての周知状況のチェックを実施している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

**(7) 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況**

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（7件）、及び許可件数（7件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・）
- ・活動の主な内容：

診療科から申請書が臨床倫理室に提出され、高難度新規医療技術導入審査部門で確認後、高難度新規医療技術等評価委員会へ諮り、適否の意見を受け、最終的に部門長および臨床倫理室長が適否を決定し、診療科へ通知する。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：

診療科から申請書が臨床倫理室に提出され、未承認新規医薬品導入審査部門で確認後、高難度新規医療技術等評価委員会へ諮り、適否の意見を受け、最終的に部門長および臨床倫理室長が適否を決定し、診療科へ通知する。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年302件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年2,695件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- 医療事故及びインシデントに関する情報の収集並びに原因の究明のための調査及び分析
- 分析の結果を活用した改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知
- 改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直し
- 医療安全マニュアルの作成
- その他医療事故防止に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：愛媛大学）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：島根大学）・無）
- ・技術的助言の実施状況

原因分析は十分に行われていたが、参加者が現場の看護師のみのため、医師を含め、対象患者に関わった多職種での検討が行われると、より多角的な原因分析になると考えられる。との助言があったが、従前から、事例内容に応じて関係職種で検討している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

総合患者サポートセンターに患者相談窓口を設置し、看護相談、医療福祉相談、女性専門相談、セカンドオピニオン、要望・苦情等相談を行っている。看護師、MSW、事務職員、メディエーターにより対応しており、医療安全に係る相談は医療安全管理室長に報告し、医療安全対策のための必要な措置を講ずる。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

①新入職員研修(R6.4.1採用者研修)

研修開催期間（開催日）：R6.4.1

受講対象者：173人（うち、会場受講者：142人、DVD等受講者：31人）

②新入職員研修(R6.4.2以降年度内採用者対象)

研修開催期間（開催日）：随時実施

受講対象者：45人（うち、会場受講者：0人、DVD等受講者：45人）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、公益財団法人日本医療機能評価機構が主催する「令和6年度特定機能病院管理者研修」を受講した。

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

病院機能評価（一般病院3）を2021年8月25日～27日に受審し、2022年2月4日付けで公益財団法人日本医療機能評価機構による5年間（2021年9月25日～2026年9月24日）の認定を受けた。

- ・評価に基づき改善のために講すべき措置の内容の公表状況

指摘事項なし。

- ・評価を踏まえ講じた措置

特になし。

(注) 記載時点の状況を記載すること

## 規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

### 管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容

#### 医学部附属病院長候補者選考基準

令和2年4月発足の国立大学法人東海国立大学機構のスタートアップビジョン、岐阜大学の到達点と東海国立大学機構におけるビジョン、医学部附属病院が掲げる病院理念及び基本方針を実現し、地域社会の活性化の中核的拠点として、地方創生の一翼を担うため、岐阜大学医学部附属病院長選考規程第3条第2項に定める病院長候補者選考基準として、以下のとおり定める。

1. 人格が高潔で、学識が優れ、医学部附属病院内外の信頼を得ることができる者であること。
2. 医学部附属病院における学生への教育、学術研究及び社会貢献に関して、調和のとれた運営を行うことができる者であること。
3. 医学部附属病院の運営にあたり、構成員の意見に耳を傾けつつ、迅速な意思決定を行う強い指導力を発揮することができる者であること。
4. 診療、臨床教育、臨床研究など大学病院特有のミッションに精通し、医療機関の管理者としてリスク対応を含めた高いマネジメント能力を持ち、多職種からなる構成員に対して、優れたリーダーシップを発揮できる者であること。
5. 医療安全管理業務の経験並びに医療安全を第一に考える姿勢及び指導力を備え、医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者であること。
6. 医学部附属病院を含む病院での組織管理経験など、高度な医療を司る特定機能病院の管理上必要な資質及び能力を有し、医学部附属病院の安定的財政基盤の確立と効率的な組織編成を実現できる総合的運営能力を有する者であること。
7. 国際的な視野を持って医学部附属病院の運営を行うことができる者であること。
8. 医学部附属病院の現状を正確に分析するとともに、第4期中期目標・中期計画に準じた将来ビジョンを具体的かつ明確に示し、機構直轄事業の推進に指導力を発揮して、医学部附属病院の課題について、学長と連携して取り組むことができる者であること。
9. 岐阜県における中核病院として、岐阜県や岐阜県下の医療機関と連携し、地域医療の発展、人間性豊かな医療人の育成に貢献するとともに、産学連携を推進し、新しい医療の開発・発展を通じて、国際社会と地域創生に貢献する姿勢及び指導力等を有する者であること。

- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（・無）
- ・ 公表の方法

岐阜大学医学部附属病院ホームページにて公表

[https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/uploads/docs/election\\_rules.pdf](https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/uploads/docs/election_rules.pdf)

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容           <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 本病院の運営方針に関すること。</li> <li>(2) 本病院の中期目標及び中期計画に関すること。</li> <li>(3) 本病院の予算及び決算に関すること。</li> <li>(4) 本病院の組織に関すること。</li> <li>(5) その他本病院の運営に関する重要事項</li> </ul> </li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・審議の概要の従業者への周知状況           <p>翌月の科長会議・医局長等合同会議での議事録の配付。 学内ホームページ・電子カルテへの議事録の掲載。</p> </li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/> 有・無）</li> <li>・公表の方法           <p>東海国立大学機構ホームページの規則集に関する情報ページへ掲載。</p> </li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部有識者からの意見聴取の有無（<input type="checkbox"/> 有・<input checked="" type="checkbox"/> 無）</li> </ul>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
秋山 治彦	○	医師	病院長
土井 潔		医師	副病院長
清水 雅仁		医師	副病院長
古家 琢也		医師	副病院長
熊田 恵介		医師	副病院長
深尾 亜由美		看護師	副病院長
小川 武則		医師	病院長補佐
松橋 延壽		医師	病院長補佐
加藤 尚弘		事務職員	事務部長
大倉 宏之		医師	診療科長
津端 由佳里		医師	診療科長
恒川 新		医師	診療科長
下畠 享良		医師	診療科長
岩田 尚		医師	診療科長
二村 学		医師	診療科長
磯部 真倫		医師	診療科長
出雲 剛		医師	診療科長
久富 智朗		医師	診療科長
加藤 久和		医師	診療科長

岩田 浩明		医師	診療科長
塙入 俊樹		医師	診療科長
大西 秀典		医師	診療科長
松尾 政之		医師	診療科長
紙谷 義孝		医師	診療科長
山田 陽一		歯科医師	診療科長
原 明		医師	部長
森 龍太郎		医師	部長
岡田 英志		医師	センター長
馬場 尚志		医師	センター長
古井 辰郎		医師	センター長
川本 典生		医師	センター長
鈴木 昭夫		薬剤師	部長
谷口 泰弘		教育職員	室長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（**有**・**無**）
- 公表の方法

東海国立大学機構ホームページの規則集に関する情報ページへ掲載。

#### 規程の主な内容

- 本病院に、病院長を置く。
- 病院長は、院務をつかさどり、管理運営の任に当たる。
- 病院長は、本病院の予算を編成し、その予算の適切な執行に責任を持つ。
- 病院長は、病院で行われる診療について、その実施状況の報告を求め、又は自ら調査し、必要に応じて是正又は停止を命ずることができる。
- 病院長は、次条に定める副病院長が次の各号のいずれかに該当すると認めるとときは、副病院長の解任について学長を通じて機構長に申し出ることができる。
  - 心身の故障のため職務の遂行に堪えないと認められるとき。
  - 職務上の義務違反があるとき。
  - その他副病院長たるに適しないと認めるとき。
- 病院長は、第4条の病院長補佐、第4条の2の病院長特別補佐、第6条の科長、第9条から第16条に掲げる部長、センター長及び室長(以下「病院長補佐等」という。)が次の各号のいずれかに該当すると認めるとときは、病院長補佐等を解任することができる。
  - 心身の故障のため職務の遂行に堪えないと認められるとき。
  - 職務上の義務違反があるとき。
  - その他病院長補佐等たるに適しないと認めるとき。
- 病院長は、病院長補佐等を解任したときは、その理由を明らかにしなければならない。

#### 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

##### ○副病院長

病院長の職務を補佐し、及び病院長の命を受け、職務（経営・医療の質保証、働き方・地域連携、教育・研修・中期目標・広報、医療安全・危機管理、看護・患者サービス等）を分担する。

##### ○病院長補佐

病院長及び副病院長を補佐し、並びに病院長の命を受け、特定の業務（がんゲノム医療、遠隔医療連携・国際）を掌理する。

##### ○病院長特別補佐

病院長及び副病院長を補佐し、並びに病院長の命を受け、特定の業務を掌理する。

#### 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

日本医療機能評価機構の主催する特定機能病院管理者研修へ病院長、医療安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医薬品安全管理責任者が参加している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・監査委員会の開催状況：年 2 回	
・活動の主な内容：	外部監査委員会を年2回開催し、医療安全管理の目標達成状況や、院内のインシデントや死亡退院 ・死産事例等の報告を受け、特定機能病院としての医療安全業務の実施状況を監査する。
・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無）	
・委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無）	
・委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無）	
・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無）	
・公表の方法：	岐阜大学医学部附属病院ホームページへ掲載。 <a href="https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/guide/gaibu_kansa.html">https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/guide/gaibu_kansa.html</a>

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
王 志剛	岐阜大学		機構長が指名する副学長	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	3
富田 栄一	岐阜県病院協会・岐阜市民病院・松波総合病院	○	医療に係る安全管理に識見を有する者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	1
中西 敏夫	弁護士法人森川・鈴木法律事務所		法律に関する識見を有する者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	1
清住 一孝	柳戸会		医療を受ける者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	2
青木 昇平	つかさ会		医療を受ける者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	2
				<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

## 規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

### 管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

#### ・体制の整備状況及び活動内容

監査室及び監事による定期・臨時の監査により、法令順守状況を監査するとともに、会計監査及び経営上の重要な事項については、役員懇談会への報告を行っている。

#### ・専門部署の設置の有無（・）

#### ・内部規程の整備の有無（・）

#### ・内部規程の公表の有無（・）

#### ・公表の方法

東海国立大学機構ホームページの規則集に関する情報ページへ掲載。

## 規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に 係る措置

### 開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況

東海国立大学機構役員会をもって充てることとし、病院の経営に関する事項については、病院長又は副病院長が出席し審議を行うこととしている

- ・ 会議体の実施状況（年21回）
- ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（・無）（年14回）
- ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（・無）
- ・ 公表の方法  
東海国立大学機構ホームページの規則集に関する情報ページへ掲載。

### 病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

### 会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

## 規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

### 窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（・）
- ・通報件数（年〇件）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（・）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（・）
- ・周知の方法

岐阜大学医学部附属病院医療安全／感染対策／医療チームポケットマニュアル・岐阜大学医学部附属病院ホームページへ掲載。

[https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/post\\_2.html](https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/post_2.html)

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	事務部長	加藤 尚弘
閲覧担当者氏名	医事課長	山口 誠
閲覧の求めに応じる場所	医事課・医療支援課事務室内	カルテ閲覧室
閲覧の手続の概要		
閲覧しようとする者は、閲覧申込書を原則として、閲覧を希望する2週間前までに提出し、病院長の承認を得る。 病院長は、前項の申込みを適当と認めるときは、閲覧承認書を交付。 閲覧に関しては、閲覧担当者が立ち会う。ただし、閲覧担当者に事故があるとき又は閲覧する諸記録によつては、あらかじめ閲覧責任者が指名する者が立ち会う。 閲覧を承諾された者は、閲覧に立ち会う本学職員の指示に従い、万一従わない場合は、閲覧を中止する。		
(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。		

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延	0件
閲 覧 者 別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・情報発信の方法、内容等の概要  広報誌「うぶね」やホームページ等で院内の情報を積極的に広報している。また、メディア懇談会の開催や、積極的にアピールしたい情報に関して報道関係者へプレスリリースを行っている。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要  患者相談窓口部門として総合患者サポートセンターの医師、看護師、メディエーター、ソーシャルワーカー、事務職員と院内の医療安全管理部門から医師、看護師の他に医療支援課 事務職員で「患者支援カンファレンス」を週1回程度で開催し患者等の相談内容について連携し対応している。	